Panasonic®

取扱説明書

AV コントロールアンプ

品番 SA-XR55

④〜⑨ ホームシアターの準備

詳しいもくじは、3ページをご覧ください。

保証書別添付

上手に使って上手に節電

このたびは、AV コントロールアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
■この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」(➔28～29)はご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
■お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
■保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

RQT8122-3S

ホームシアターの楽しみかた

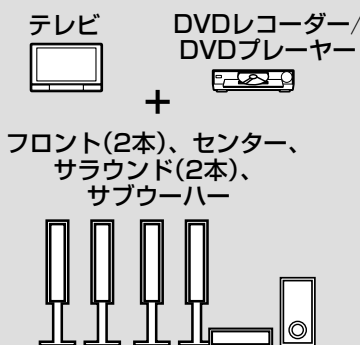
接 続 → 設 定

本格的に楽しむ

サラウンドバック
スピーカーを接続して
7.1 CH/6.1 CH（チャンネル）
サラウンド

スピーカーの有無の設定
+
サラウンドバックスピーカーの設定

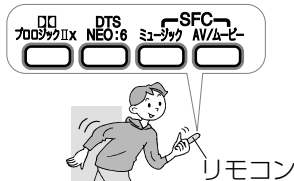
映画館の迫力を楽しむ

映画館にいるような
臨場感
5.1 CH（チャンネル）
サラウンド

スピーカーの有無の設定

接続したすべてのスピーカーから音を出そう！！

1
テレビをサラウンドで
楽しむにはどうしたら
いいのかな。

2
テレビは2チャンネルの
ステレオ音声だから、
フロントスピーカーから
しか音が出ないんだ。

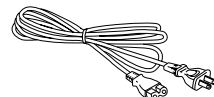
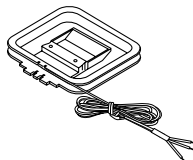
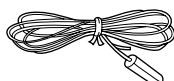
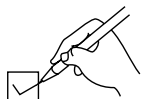
3
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx（ドルビー プロロジック）
DTS NEO:6（ディーティーエス ネオ）
SFC
でサラウンドになるんだって。

4
やった！！
テレビをサラウンド音声で
楽しめるね。

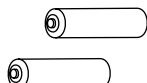
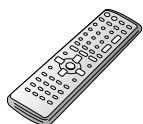
付属品の確認

接続の前に、まず付属品を確認してください。

□ FM 簡易型アンテナ★（1 本）
【RSA0007-L】

□ AM ループアンテナ★（1 本）
【RSA0037】

□ 電源コード★（1 本）
【RJA0050-K】

□ リモコン★（1 コ）
【EUR7722KP0】

□ リモコン用乾電池
（単 3 形： 2 コ）

お願い

- ●付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- ●かっこ【　】内は買い替え時の品番です。（2005 年 2 月現在のものです。）
- ●電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

再 生

DVDを7.1 チャンネル/
6.1 チャンネルに…

テレビ、CDを
7.1 チャンネル/
6.1 チャンネルに…

DOLBY PRO LOGIC Ⅱx（ドルビー プロロジック）
DTS NEO:6（ディーティーエス ネオ）
SFC

テレビ、CDを
5.1 チャンネルに…

5.1 チャンネルソース以外の
DVDも5.1 チャンネルに…

DOLBY PRO LOGIC Ⅱx（ドルビー プロロジック）
DTS NEO:6（ディーティーエス ネオ）
SFC

●テレビやCDなどのステレオ音声をサラウンド（すべてのスピーカーから音を出力）で聞くには、ドルビープロロジックⅡx、DTS NEO:6、SFCのいずれかを使用します。（➔16）
●スピーカーの設定や、入力信号（再生しているディスクの音声信号など）によっては、できない場合があります。（➔ 27）

付属品（➔2）と別売り品（➔4～7）は販売店でお買い求めいただけます。
★印は松下グループのショッピングサイト「パナセンス」でもお買い求めいただけます。

Pana Sense

パナセンスカスタマーセンター
http://www.sense.panasonic.co.jp/
TEL　06-6907-9144

もくじ

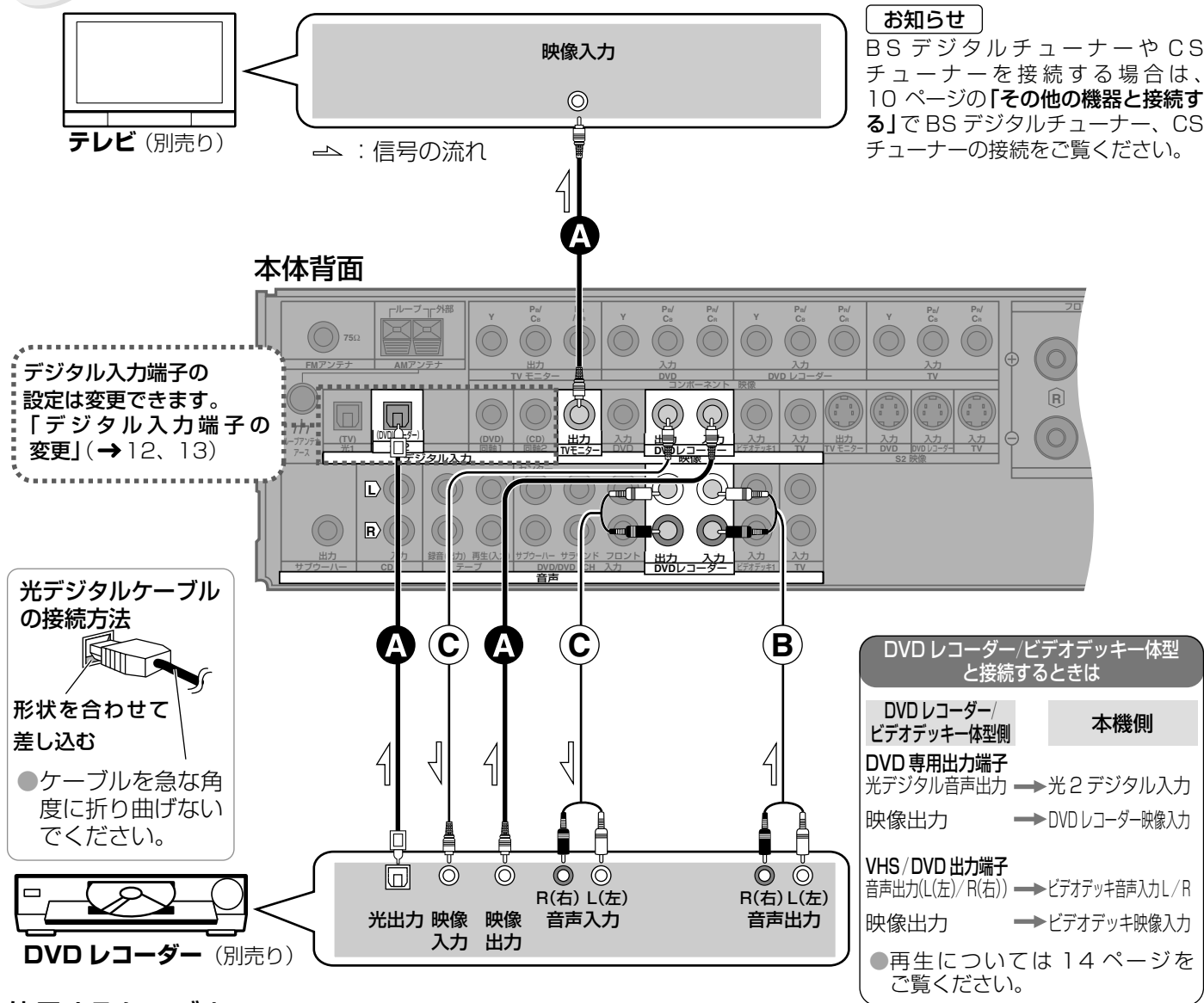
本書内の表現について

●参照していただくページを（➔ ○○）で示しています。

ホームシアターの準備

テレビ、DVD レコーダーと接続する

ケーブルの接続について

まず ▶ Ⓐ：ドルビーデジタルや DTS などのサラウンドソース（5.1 チャンネルなど）を再生する場合に必要です。
お好みで ▷ Ⓐ＋Ⓑ：DVD レコーダーのアナログ音声を "テープ" 端子に接続（➜ 10）した機器に録音する場合（➜ 19）に必要です。
お好みで ▷ Ⓐ＋Ⓑ＋Ⓒ：DVD レコーダーに音声や映像を録音、録画する場合（➜ 19）に必要です。

基本的な接続

テレビ（別売り）

映像入力

⇀：信号の流れ

お知らせ

BS デジタルチューナーや CS チューナーを接続する場合は、10 ページの**「その他の機器と接続する」**で BS デジタルチューナー、CS チューナーの接続をご覧ください。

本体背面

デジタル入力端子の設定は変更できます。「デジタル入力端子の変更」（➜ 12、13）

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

●ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

Ⓐ Ⓒ Ⓐ Ⓒ Ⓑ

光出力　映像入力　映像出力　R(右) L(左) 音声入力　R(右) L(左) 音声出力

DVD レコーダー（別売り）

DVD レコーダー/ビデオデッキ一体型と接続するときは

DVD レコーダー/ビデオデッキ一体型側	本機側
DVD 専用出力端子	
光デジタル音声出力	➡光 2 デジタル入力
映像出力	➡DVD レコーダー映像入力
VHS/DVD 出力端子	
音声出力(L(左)/R(右))	➡ビデオデッキ音声入力 L/R
映像出力	➡ビデオデッキ映像入力

●再生については 14 ページをご覧ください。

使用するケーブル

●上図を参考に、用途に合わせてご用意ください。

ステレオピンコード★（別売り）
［品番：RP-CAP3G10（1 m）など］
(L/左) 白
(R/右) 赤

光デジタルケーブル★（別売り）
［品番：RP-CA2010A（1 m）など］
角形

ビデオコード★（別売り）
［品番：RP-CVP0G10（1 m）など］

別売り品の品番は、2005 年 2 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

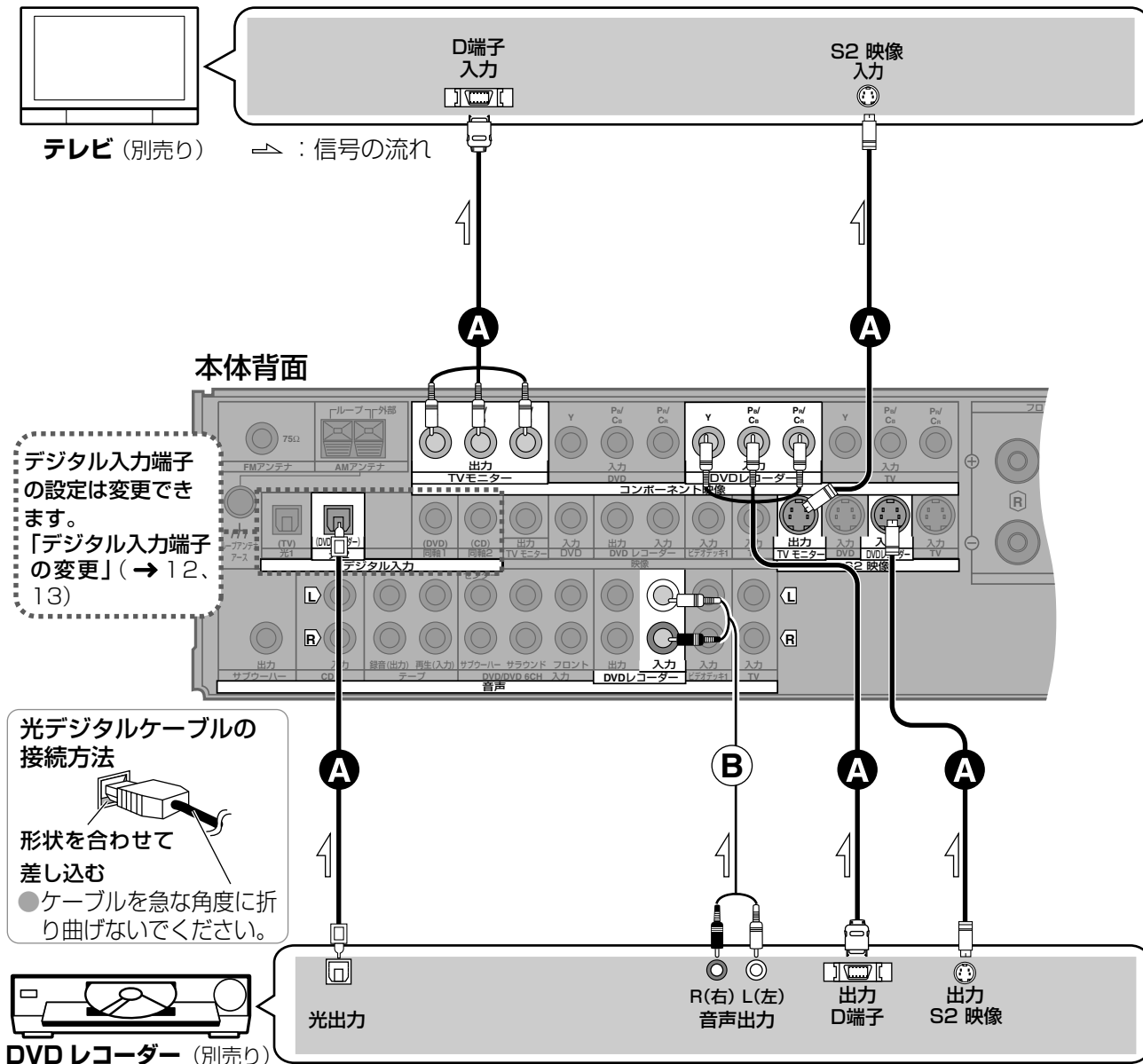
DVD オーディオの高音質なアナログ音声を楽しむ（アナログ 6CH 接続）

● 再生については、15 ページをご覧ください。

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の説明書もご覧ください。
●本機の上には物を載せないでください。

高画質で楽しむ

左ページのビデオコードを使った接続よりも、高画質な映像が楽しめます。
お持ちの映像機器に合わせて S2 映像かコンポーネント映像を接続してください。
●コンポーネント映像は、S2 映像よりも忠実な色を再現できます。

D端子
入力
S2 映像
入力
テレビ（別売り）
：信号の流れ
A
A
本体背面
デジタル入力端子の設定は変更できます。
「デジタル入力端子の変更」（➜ 12、13）
出力
TVモニター
入力
DVD
DVDレコーダー
コンポーネント映像
デジタル入力
S2 映像
入力
DVDレコーダー
音声
光デジタルケーブルの接続方法
形状を合わせて
差し込む
●ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。
A
B
A
A
光出力
R(右) L(左)
音声出力
出力
D端子
出力
S2 映像
DVD レコーダー（別売り）

お知らせ

BS デジタルチューナーや CS チューナーを接続する場合は、10 ページの**「その他の機器と接続する」**で BS デジタルチューナー、CS チューナーの接続をご覧ください。

使用するケーブル

●上図を参考に、用途に合わせてご用意ください。

ステレオピンコード★（別売り） ［品番： RP-CAP3G10（1 m）など］ （L／左）白 （R／右）赤	**光デジタルケーブル★**（別売り） ［品番： RP-CA2010A（1 m）など］ 角形	●テレビや DVD レコーダーのコンポーネント端子と接続する場合は、コンポーネント映像コード（別売り）を使ってください。
S 映像コード★（別売り） ［品番： RP-CVS0G10（1 m）など］	**D 端子ピンケーブル★**（別売り） ［品番： RP-CVCDG15（1.5 m）など］	**コンポーネント映像コード★**（別売り） ［品番： RP-CVPCG10（1 m）など］

別売り品の品番は、2005 年 2 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

お知らせ

映像端子について

●入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
●コンポーネント映像端子（色差映像端子）は、赤（PR／CR）、青（PB／CB）、輝度（Y）信号がそれぞれ独立して出力されるため、色をより忠実に再現します。本機のコンポーネント映像端子は Y、PB、PR または Y、CB、CR のコンポーネント映像に対応しています。

テレビ、DVD プレーヤーと接続する

ケーブルの接続について

まず Ⓐ：ドルビーデジタルや DTS などのサラウンドソース（5.1 チャンネルなど）を再生する場合に必要です。

お好みで Ⓐ＋Ⓑ：DVD プレーヤーのアナログ音声を "テープ" 端子や "DVD レコーダー" 端子に接続（ ➜ 4、10）した機器に録音、録画する場合（➜ 19）に必要です。

基本的な接続

映像入力

テレビ（別売り）

⇀：信号の流れ

お知らせ

BS デジタルチューナーや CS チューナーを接続する場合は、10 ページの「**その他の機器と接続する**」で BS デジタルチューナー、CS チューナーの接続をご覧ください。

本体背面

デジタル入力端子の設定は変更できます。
お持ちの DVD プレーヤーに光出力しかない場合でも、「**デジタル入力端子の変更**」（➜ 12、13）を行うことで使えるようになります。

Ⓐ Ⓐ Ⓑ

同軸出力 映像出力 R(右) L(左) 音声出力

DVD プレーヤー（別売り）

使用するケーブル

●上図を参考に、用途に合わせてご用意ください。

ステレオピンコード★（別売り）	**同軸デジタルケーブル**（市販）	**ビデオコード★**（別売り）
[品番： RP-CAP3G10（1 m）など] （L／左）白 （R／右）赤		[品番： RP-CVP0G10（1 m）など]

別売り品の品番は、2005 年 2 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

DVD オーディオの高音質なアナログ音声を楽しむ（アナログ 6CH 接続）

DVD プレーヤー（別売り）

● 再生については、15 ページをご覧ください。

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の説明書もご覧ください。
●本機の上には物を載せないでください。

高画質で楽しむ

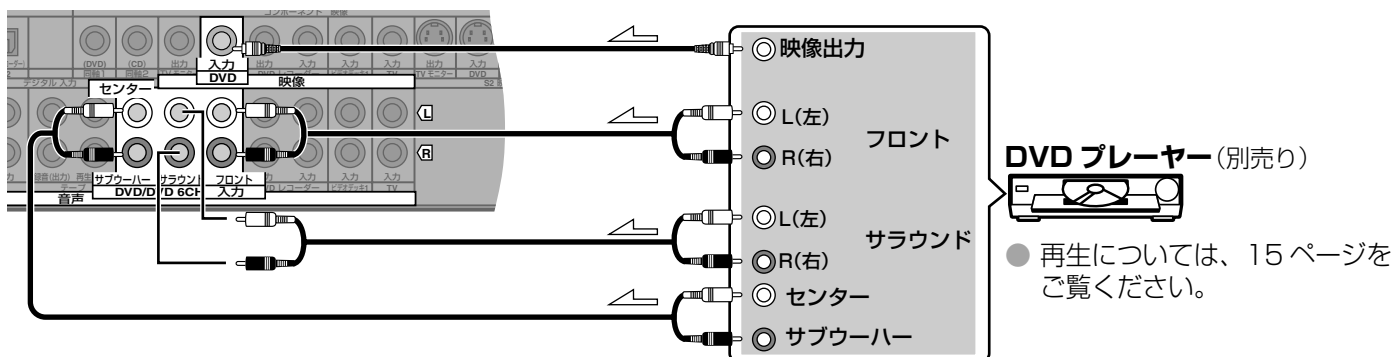
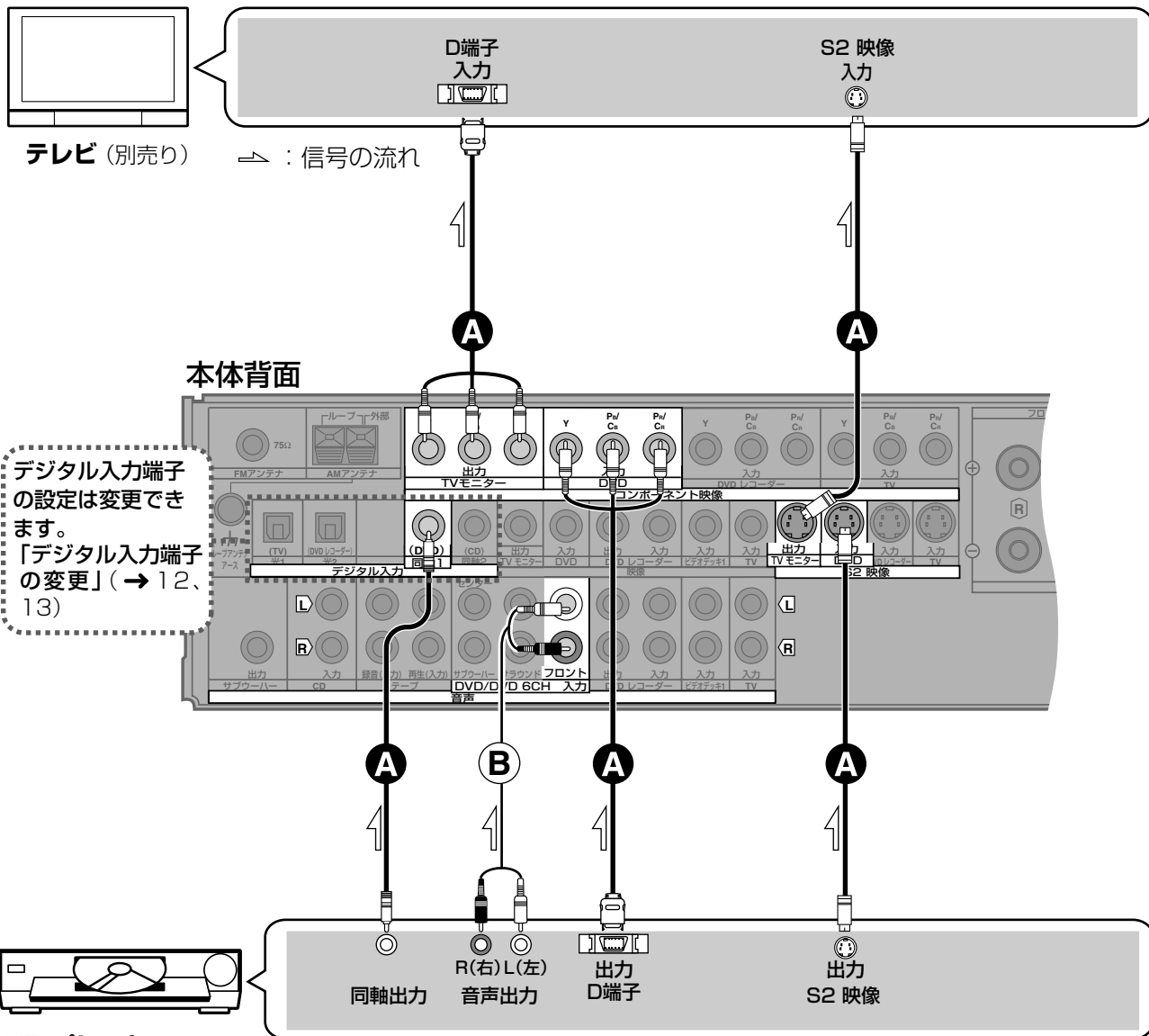
左ページのビデオコードを使った接続よりも、高画質な映像が楽しめます。
お持ちの映像機器に合わせてS2映像かコンポーネント映像を接続してください。
●コンポーネント映像は、S2映像よりも忠実な色を再現できます。

D端子
入力
S2 映像
入力

テレビ（別売り）　⇀：信号の流れ

本体背面

デジタル入力端子の設定は変更できます。
「デジタル入力端子の変更」（➜12、13）

同軸出力　R(右) L(左) 音声出力　出力 D端子　出力 S2 映像

DVD プレーヤー（別売り）

お知らせ

BS デジタルチューナーや CS チューナーを接続する場合は、10 ページの**「その他の機器と接続する」**で BS デジタルチューナー、CS チューナーの接続をご覧ください。

使用するケーブル　●上図を参考に、用途に合わせてご用意ください。

ステレオピンコード★（別売り） [品番：RP-CAP3G10（1 m）など] （L/左）白 （R/右）赤	**同軸デジタルケーブル**（市販）	●テレビや DVD プレーヤーのコンポーネント端子と接続する場合は、コンポーネント映像コード（別売り）を使ってください。
S 映像コード★（別売り） [品番：RP-CVS0G10（1 m）など]	**D 端子ピンケーブル★**（別売り） [品番：RP-CVCDG15（1.5 m）など]	**コンポーネント映像コード★**（別売り） [品番：RP-CVPCG10（1 m）など]

お知らせ

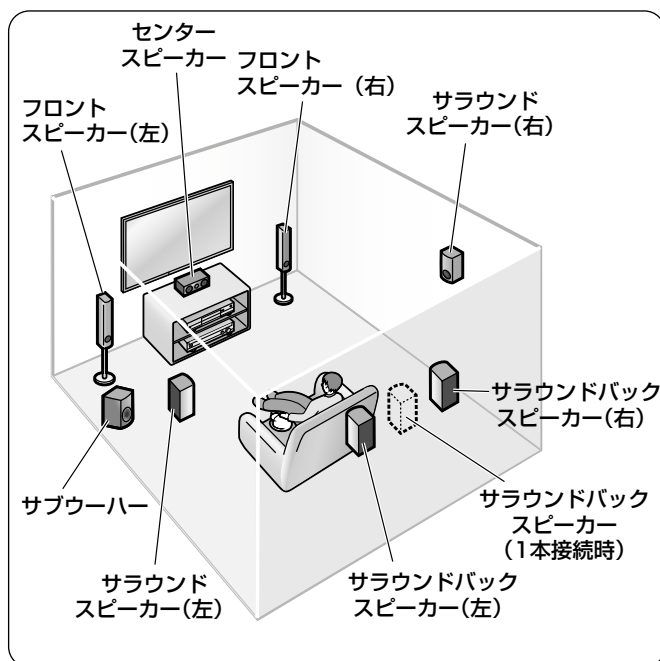
別売り品の品番は、2005 年 2 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

映像端子について

●入力された映像信号は同じタイプの出力端子からしか出力されません。
●コンポーネント映像端子（色差映像端子）は、赤（PR/CR）、青（PB/CB）、輝度（Y）信号がそれぞれ独立して出力されるため、色をより忠実に再現します。本機のコンポーネント映像端子は Y、PB、PR または Y、CB、CR のコンポーネント映像に対応しています。

ホームシアターの準備（つづき）

スピーカーと接続する

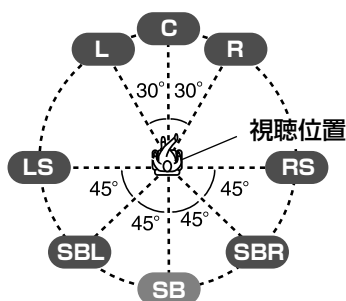
スピーカーの設置

フロントスピーカー（左 L 、右 R ：別売り）
- テレビの左右に置き、視聴位置で（実際に椅子に座るなどして）映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調整してください。

センタースピーカー（ C ：別売り）
- テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。

サラウンドスピーカー（左 LS 、右 RS ：別売り）
- 視聴位置の左右（横またはやや後ろ）に、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

サラウンドバックスピーカー
（左 SBL 、右 SBR /一本接続時 SB ：別売り）
- 視聴位置の後ろに、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

サブウーハー（ SW ：別売り）
- テレビから大きく離れない程度の適当な位置に置いてください。

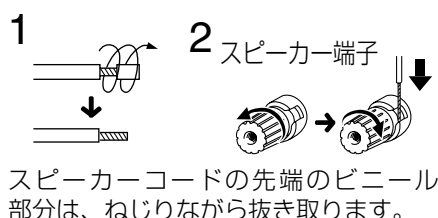
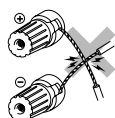
スピーカーの数に合わせて設置する

視聴位置から各スピーカー（サブウーハーを除く）を同じ距離に設置するのが理想です。なお、角度は目安です。
- 同じ距離に設置できない場合は各スピーカーと視聴位置との距離を測り、**「距離の設定」**（➜ 22）を行ってください。

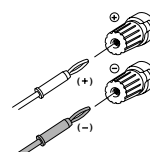
お知らせ

接続したスピーカーの数に合わせて、必ずスピーカーの有無などの設定をしてください。（➜ 12、13）

スピーカーの数	スピーカーの使いかた	位置
7本	フロントスピーカー（左、右）、センタースピーカー、サラウンドスピーカー（左、右）、サラウンドバックスピーカー（左、右）	
6本	フロントスピーカー（左、右）、センタースピーカー、サラウンドスピーカー（左、右）、サラウンドバックスピーカー（1本）	
	フロントスピーカー（左、右）、サラウンドスピーカー（左、右）、サラウンドバックスピーカー（左、右）	
5本	フロントスピーカー（左、右）、サラウンドスピーカー（左、右）、サラウンドバックスピーカー（1本）	
	フロントスピーカー（左、右）、センタースピーカー、サラウンドスピーカー（左、右）	
4本	フロントスピーカー（左、右）、サラウンドスピーカー（左、右）	
3本	フロントスピーカー（左、右）、センタースピーカー	
2本	フロントスピーカー（左、右）	

スピーカーコードの接続方法

スピーカーコードの先端のビニール部分は、ねじりながら抜き取ります。

お願い
- L（左）、R（右）と＋、－をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。
- スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。

バナナプラグ（市販）の接続

スピーカー端子を右に回してしっかり締めつけ、端子の穴にプラグを挿入してください。

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の説明書もご覧ください。
●本機の上には物を載せないでください。

スピーカーの接続

：各スピーカー（別売り）

フロントスピーカー
（右）（左）

センタースピーカー

サラウンドスピーカー
（右）（左）

サラウンドバックスピーカー
（右）（左）

サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続するときは、こちらに接続してください。

スピーカーコード（別売り）

スピーカーインピーダンス		
フロント A	：	6 ～ 16 Ω
センター	：	6 ～ 16 Ω
サラウンド	：	6 ～ 16 Ω
サラウンドバック	：	6 ～ 16 Ω

モノラルピンコード（別売り）

電源は、他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。

電源コード（付属）

ご家庭の電源コンセント
（AC 100 V、50/60 Hz）

アクティブ（アンプ内蔵）サブウーハー（別売り）

●電源プラグをコンセントに接続した状態で約0.2 W の電力を消費しています。長期間使用しないときは抜いておいてください。
ただし、電源プラグを抜いた状態で約 2 週間そのままにしておくと、本機の各種設定は購入時の状態に戻ります。そのときは、再度設定を行ってください。

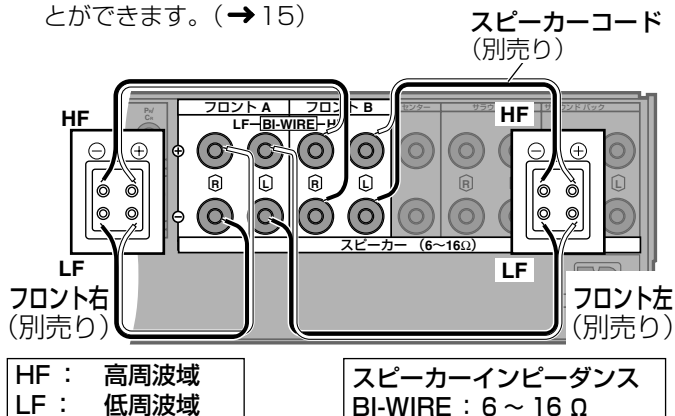
BI-WIRE（バイ ワイヤー）対応のスピーカーと接続する

BI-WIRE 対応のスピーカー：
高周波域と低周波域で独立した接続端子があるスピーカー

- BI-WIRE 接続すると、高周波域と低周波域で相互干渉がなくなり、高音質な音声が得られます。
- また、アナログ音声や、2 チャンネルの PCM 信号を再生させると、高周波域と低周波域で別々のアンプを使う、より明瞭で高音質な BI-AMP（バイ アンプ）ステレオサウンドを楽しむことができます。（➔15）

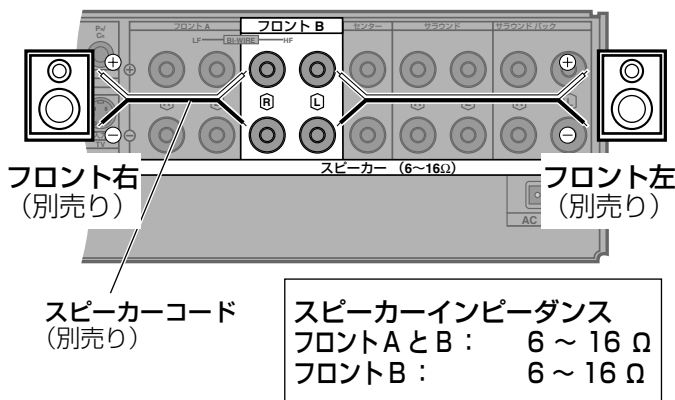
HF：	高周波域
LF：	低周波域

スピーカーインピーダンス
BI-WIRE：6 ～ 16 Ω

お知らせ 「フロントスピーカーの接続の設定」で“***BI-WIRE***”を選んでください。（➔12、13）

2 組目のフロントスピーカーと接続する

他の部屋で音楽を楽しみたいときなどに使用します。

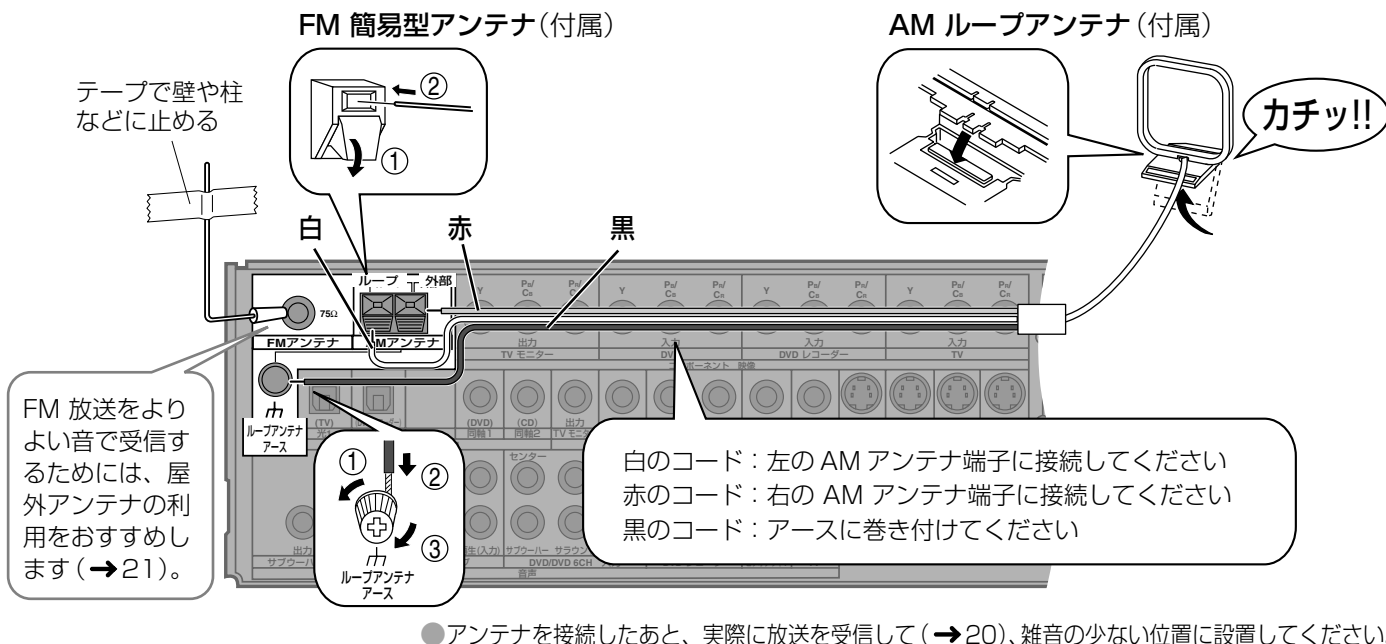
スピーカーコード（別売り）

スピーカーインピーダンス	
フロント A と B：	6 ～ 16 Ω
フロント B：	6 ～ 16 Ω

●フロント B 端子に接続したスピーカーで音声を楽しむときは、スピーカー B を選択してください。（➔15）
●スピーカー B のみ選択すると、2 チャンネルの再生になります。多チャンネルソースを再生する場合は、2 チャンネルに集約して、左右のフロントスピーカーから出力します。(2CH MIX)

他の機器の接続

●接続するときは、各機器の電源を切ってください。
●接続する各機器の説明書もご覧ください。
●本機の上には物を載せないでください。

ラジオのアンテナを接続する

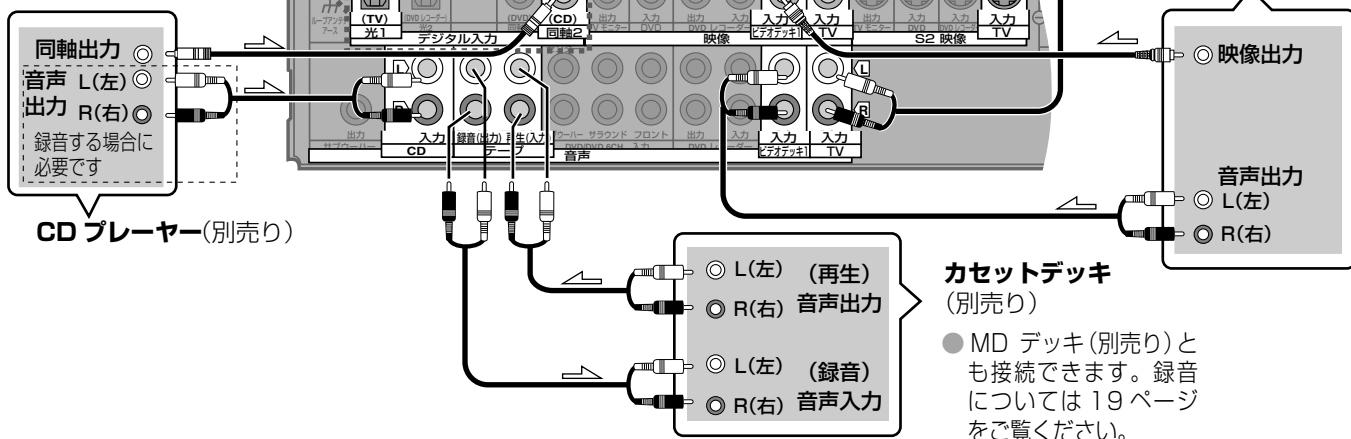
●アンテナを接続したあと、実際に放送を受信して(➔20)、雑音の少ない位置に設置してください。

その他の機器と接続する(BS デジタルチューナー、CS チューナー/ビデオデッキ/CD プレーヤー/カセットデッキ)

テレビの接続については、4 ページから 7 ページをご覧ください。
録音・録画については、19 ページをご覧ください。

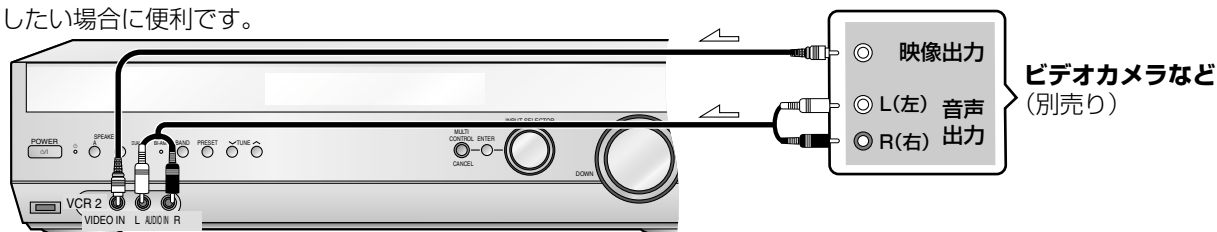
BS デジタルチューナーまたは **CS チューナー**(ともに別売り)
●映像端子への接続は、テレビとの接続に合わせて、**映像**、**S2 映像**または**コンポーネント映像**のいずれかを接続してください。
●高画質な映像(S2 映像など)を録画する場合は、BS デジタルチューナーまたは CS チューナーを直接 DVD レコーダーに接続してください。

ビデオデッキ(別売り)
●再生用の接続です。
●テレビ、DVD レコーダーを接続する場合は、4 ページの接続を行ってください。高画質接続(➔ 5)では、ビデオデッキの映像は出力されません。

CD プレーヤー(別売り)

カセットデッキ(別売り)
●MD デッキ(別売り)とも接続できます。録音については 19 ページをご覧ください。

ビデオカメラやゲーム機などと接続する

一時的に接続したい場合に便利です。

ビデオカメラなど(別売り)

各部のはたらき

リモコン

アンプ電源ボタン

ラジオの選択/
ラジオのバンドを切り換える（➔ 20）

ラジオ放送局の周波数を入力（➔20）/
チャンネル入力 ラジオ（➔21）
テレビ（➔23）
ビデオ（➔25）

トラックやチャプターを選ぶ
DVD プレーヤー（➔23）
DVD レコーダー（➔24）

トラックを選ぶ
CD プレーヤー（➔25）

スピーカー出力の確認とレベル調整
（➔13）

サウンドモード（➔16）

入力ソースの電源を「入/切」する/ソース切り換え
リモコンの操作モードを切り換える（➔23 ～ 25）

DVD オーディオを 6CH 再生（➔15）

チャンネル選択 ラジオ（➔21）
テレビ（➔23）
ビデオ（➔25）

音量を調整（➔13）

他の機器の操作（➔23 ～ 25）

音質・音場効果/
便利な機能（➔16、17）

本体

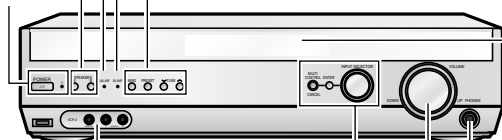
⏻/I POWER（パワー）
電源の入/切

通電ランプ
電源コードを接続するとランプが点灯

フロントスピーカーの選択（➔ 13 ～ 15、19）

DUAL AMP（デュアル アンプ）機能が働くとき点灯（➔15）

BI-AMP（バイ アンプ）機能が働くとき点灯（➔15）

ラジオの操作（➔20、21）

ヘッドホンを接続（➔19）

ボリュームを調整（➔14）

ビデオカメラなどと接続（➔ 10）

入力ソースの切り換え（➔14、19）
マルチコントロールモードの操作（➔12、13、18 ～ 22、25）

本体表示部

マルチコントロールモードの操作時に点灯

マルチソース リ.マスターを使用時に点灯

ラジオ受信、操作時に点灯

2CH MIX が働いているときに点灯

デジタル入力

情報表示

使用するスピーカーを表示

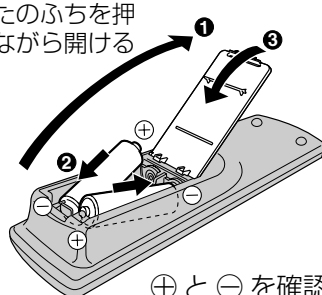
スリープタイマー設定時に点灯

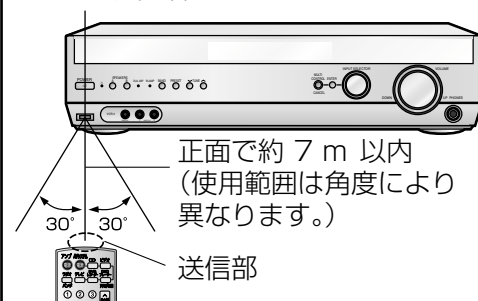
PCM FIX 選択時に点灯

周波数単位

サウンドモード

リモコンの準備

乾電池の入れかた

⊕と⊖を確認！
（単 3 形）

リモコンの使いかた

■使用上のお願い

- 受光部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部と送信部のほこりに注意。

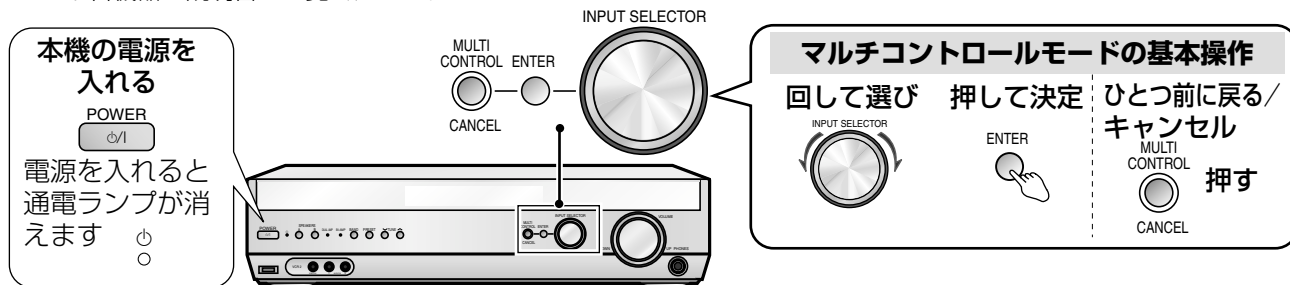
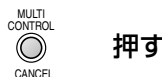
■本体をラックに入れて使用するとき

ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

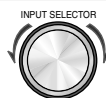
設定する

●より詳細な設定をするには、22 ページをご覧ください。
●マルチコントロールのメニューと初期設定の状態については 26 ページを参照ください。

●より詳細な設定をするには、22 ページをご覧ください。

スピーカーや各機器の説明書もご覧ください。

1 マルチコントロールモードに入る

MULTI CONTROL 押す　MULTI CONTROL

2 "SETUP 1"を選ぶ

（"*BASIC SETUP*" と表示が流れます）

回して選び　SETUP 1　ENTER 押して決定

3 各設定を行う　適切な音声を出力させるため、太枠の設定は特に大切です。

設定	手順	表示
スピーカーの有無の設定 接続したスピーカーの組み合わせを設定します。 お知らせ サブウーハーの有無は、**「スピーカーの有無とサイズの設定」**のフロントスピーカーのサイズと連動して切り換わります。（➜ 22）	1. "*SPKR SET*" を選び、決定（SPEAKER SET）	SPKR SET
	2. サブウーハーの有無を選び、決定	SUBW YES
	3. 接続したスピーカーの組み合わせを選び、決定	LCR S SB
フロントスピーカーの接続の設定 フロントスピーカーを BI-WIRE 接続した場合に設定します。（➜9）	1. "*FRNT L/R*" を選び、決定（FRONT L/R）	FRNT L/R
	2. "*BI-WIRE*" を選び、決定	BI-WIRE
サラウンドバックスピーカーの設定 上記「スピーカーの有無の設定」でサラウンドバックスピーカー「有」の設定（*LCR S SB* か *L_R S SB*）に設定したときのみ表示 SB（サラウンドバックスピーカー）の本数を設定します。	1. "*SB SPKR*" を選び、決定（SB SPEAKER）	SB SPKR
	2. 本数を選び、決定	2 SPKRS
デジタル入力端子の変更 デジタル入力端子に接続した機器に合わせて、設定を変更します。 ひとつの入力は複数の端子で使用できません。 （例）DVD を "*OPT 1*" の設定に変更した場合、DVD は *OPT 1*（光1）以外のデジタル端子で使用できません。	1. "*D-INPUT*" を選び、決定（DIGITAL INPUT）	D－INPUT
	2. デジタル入力端子に接続した機器を選び、決定	TV
	3. デジタル入力の設定を変更し、決定	OPT 1
	手順 2 と 3 を繰り返し、設定を変更	
入力信号の設定 DVD レコーダーや DVD プレーヤーなどの入力を、デジタルとアナログで自動判別するのか、固定するのかを設定します。 **特に信号を固定する必要のないときは、"*AUTO*" にしてください。** PCM FIX について CD を再生したとき、曲の始まりが途切れるような場合に使用してください。 ●**正常に再生できる場合はこの設定をする必要はありません。** ●ノイズが発生する場合は解除してください。	1. "*IN MODE*" を選び、決定（INPUT MODE）	IN MODE
	2. デジタル入力端子に接続した機器を選び、決定	TV
	3. 入力信号の判別方法を選び、決定	AUTO
	手順 2 と 3 を繰り返し、設定を変更 ●PCM FIX 設定時に PCM 以外のソースが入力された場合は、表示部に "*PCM FIX*" が点滅します。	

4 "EXIT"を選び、設定を終える

数回押して　EXIT　選び

押す

センター
スピーカー
フロント
スピーカー
（右）
フロント
スピーカー
（左）
サラウンド
スピーカー（右）
サブ
ウーハー
サラウンドバック
スピーカー（右）
サラウンド
スピーカー（左）
サラウンドバック
スピーカー
（1本接続時）
サラウンドバック
スピーカー（左）

SUBW YES	：サブウーハー「有」
SUBW NO	：サブウーハー「無」

LCR S SB	：すべてのスピーカーを接続
L_R S SB	：センター以外を接続
LCR S _ _	：サラウンドバック以外を接続
L_R S _ _	：フロントとサラウンドのみ接続
LCR _ _ _	：フロントとセンターのみ接続
L_R _ _ _	：フロントのみ接続

NORMAL	：BI-WIRE 接続していない
BI-WIRE	：BI-WIRE 接続している 表示部に“ **BI-WIRE** ”が点灯します。

1 SPKR	： SB を 1 本接続
2 SPKRS	： SB を 2 本接続

TV	：テレビ
DVR	： DVD レコーダー
DVD	： DVD プレーヤー
CD	： CD プレーヤー

OPT 1	：光 1
OPT 2	：光 2
COAX 1	：同軸 1
COAX 2	：同軸 2

TV	：テレビ
DVR	： DVD レコーダー
DVD	： DVD プレーヤー
CD	： CD プレーヤー

AUTO	：自動判別（デジタル信号が優先されます）
ANALOG	：アナログに固定
DIGITAL	：デジタルに固定
PCM FIX	：PCM（音楽 CD など）のデジタルに固定 表示部に“**PCM**”が点灯します。

お知らせ

本機の電源を切っても、設定の内容は記憶されます。

スピーカー出力の確認と調整

テスト信号を使用します。
●接続したスピーカーから音が出ているか確認する
●視聴位置で、フロントスピーカーの音と各スピーカーの音がバランスよく聞こえるように、スピーカーの出力レベルを調整する

1 スピーカー A を選ぶ

SPEAKERS A 押す　– SPEAKERS – A

（BI-WIRE 接続の場合）

[SPEAKERS A または B] を押す。　– SPEAKERS – A B BI-WIRE

“**A**”、“**B**”、“**BI-WIRE**”が表示されます。

お知らせ

スピーカー B のみ選択されているときは、テスト信号は出力されません。

2 テスト信号の出力を確認する

テスト 押す　TEST L

スピーカーから音が出力されない場合は、もう一度、接続と設定を確認してください。
（➜8、9、左記）

約 2 秒間隔で下記の順に出力されます。
L → C → R → RS → SBR → SBL → LS → SW
または
L → C → R → RS → SB → LS → SW（サラウンドバックスピーカー 1 本接続時）

L：フロント（左）　***C***：センター　***R***：フロント（右）
RS：サラウンド（右）　***LS***：サラウンド（左）
SBR：サラウンドバック（右）　***SBL***：サラウンドバック（左）
（サラウンドバックが 1 本の場合は、***SB*** と表示されます）　***SW***：サブウーハー

お知らせ

「スピーカーの有無の設定」で、接続していない設定にしたスピーカーはスキップされます。（➜左記）

3 フロントスピーカーを通常聞く音量にする

押す　VOL –50dB

-- dB（最小）－ ***79dB*** ～ ***0 dB***（最大）

4 調整するスピーカーを選ぶ

レベル 押す　C 0dB

C　：センター
RS　：サラウンド（右）
SBR：サラウンドバック（右）
SBL：サラウンドバック（左）
（サラウンドバック 1 本時は ***SB***）
LS　：サラウンド（左）
SW　：サブウーハー

5 各スピーカーの音量を調整する

– ◄　+ ► 押す　C +4dB

C/RS/SBR/SBL/LS：
（サラウンドバック 1 本時は ***SB***）
－ ***10 dB*** ～ ＋ ***10 dB***
（初期設定： ***0dB***）
SW：
MIN（最小）↔ ***1*** ～ ***19*** ↔ ***MAX***（最大）
（初期設定： ***10***）

手順 4 と 5 を繰り返して各スピーカーを調整する。

●手順 4 と 5 では調整しているスピーカーからのみ出力されます。操作後約 2 秒経つと、再び順に出力されます。

6 テスト信号を止める

押す

ホームシアターを楽しむ

基本の再生

1 スピーカー A を選ぶ

SPEAKERS A B 押す

— SPEAKERS — A

（BI-WIRE 接続の場合）

[SPEAKERS A または B] を押す。
“A”、“B”、“BI-WIRE”が表示されます。

— SPEAKERS — A B BI-WIRE

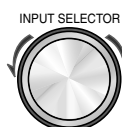
フロントスピーカーを BI-WIRE 接続している場合は、必ず「フロントスピーカーの接続の設定」で、“*BI-WIRE*”に設定してください。（➔ 12、13）

●スピーカー B は、2 チャンネルのみの再生になります。

2 セレクターを切り換え、入力ソース（音源）を選ぶ

再生する機器と接続した端子名（本機側）を選択してください。

回す

DVR

TUNER、***CD***、***TV***、***DVD***、***DVR***、***VCR 1***、***VCR 2***、***TAPE***

DVR（DVD レコーダー）表示後、“***DVD RECORDER***”と一度表示が流れます。

■ DVD レコーダー/ビデオデッキ一体型の場合
DVD を楽しむとき ：“***DVR***”に合わせる
ビデオを楽しむとき：“***VCR1***”に合わせる

3 入力ソース（音源）を再生する

●入力信号に応じてステレオまたはサラウンドで再生されます。
例えば、ドルビーデジタルや DTS などの多チャンネルデジタル信号の場合は、自動的にサラウンドで再生されます。

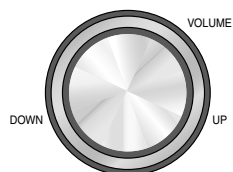
■好みのサラウンド効果を加えたい場合やステレオを多チャンネルで聞きたい場合などは（➔ 16「サウンドモード」）

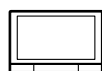
4 音量を調整する

回す

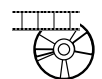
VOL－50dB

--* dB**（最小）－79dB*** ～ ***0 dB***（最大）

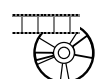
■再生を楽しんだ後は
音量を下げてから [⏻/I POWER] を押し、電源を切ってください。

本機で再生できるデジタル信号

■ AAC

BS デジタル放送など

BS デジタル放送などに採用されている圧縮音声です。
多チャンネルのサラウンド音声を再生できます。

■ Dolby Digital（ドルビー デジタル）（Dolby Digital Surround EX（ドルビー デジタル サラウンド） も含む）

DVD など

ドルビー研究所が開発したデジタルサラウンドシステムです。Dolby Digital Surround EX では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。

■ DTS（ディーティーエス）
（DTS-ES、DTS 96/24 も含む）

DVD など

DTS 社が開発したデジタルサラウンドシステムです。
DTS-ES では、従来の 5.1 チャンネル方式に加え、サラウンドバックチャンネルを用いることで、さらに臨場感のある音場を作り出します。DTS 96/24 では、96 kHz/24 bit の高音質な音声を多チャンネルで再生します。

■ PCM

CD など

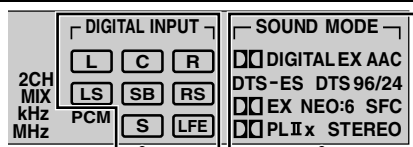
本機では、同軸 1 デジタル入力端子は 192 kHz まで、その他のデジタル入力端子は 96 kHz まで再生できます。

お知らせ

ドルビーデジタル RF 信号や、MPEG 音声信号は再生できません。

BGV（バックグラウンドビジュアル）機能

DVD レコーダー端子に接続した映像機器は、再生中に、セレクターを ***TUNER***、***CD*** または、***TAPE*** に切り換えると映像機器の音声は消えますが、映像はそのまま残ります。

ディスプレイ表示

デジタル入力表示　サウンドモード表示

デジタル入力表示について

表示が点灯するとき
●デジタル信号が入ったとき
●「**入力信号の設定**」(➜12、13)を "***DIGITAL***" に切り換えたとき

デジタル入力信号に含まれるチャンネルが表示されます。

- L　：フロントチャンネル(左)
- C　：センターチャンネル
- R　：フロントチャンネル(右)
- S　：サラウンドチャンネルがモノラルの場合に表示
- LS　：サラウンドチャンネル(左)
- SB　：サラウンドバックチャンネル
- RS　：サラウンドチャンネル(右)
- LFE　：重低音効果チャンネル

お知らせ

表示が点灯していても、スピーカーを接続していない設定にしている場合、そのチャンネルは出力されません。(➜12、13)

サウンドモード表示について

デコード形式により次のランプが点灯します。

- DD DIGITAL　：ドルビーデジタルデコーダーが動作しているとき
- DD DIGITAL EX　：ドルビーデジタルの5.1チャンネルやドルビーデジタルサラウンドEXにドルビーデジタル EXデコーダー(ドルビープロロジックIIxデコーダー)が動作しているとき
- DD EX　：DTSやAACの5.1チャンネルにドルビーデジタル EXデコーダー (ドルビープロロジックIIxデコーダー)が動作しているとき
- DTS　：DTSデコーダーが動作しているとき
- DTS 96/24　：DTS 96/24 デコーダーが動作しているとき
- DTS-ES　：DTS-ES ディスクリートデコーダーやマトリックステデコーダーが動作しているとき
- AAC　：AACデコーダーが動作しているとき
- STEREO　：2チャンネルのステレオソースを再生しているとき
- DD PL IIx　：ドルビープロロジック IIxデコーダーを使用しているとき サラウンドバックスピーカーを接続していない設定の場合は(➜12、13)、2チャンネルのステレオソースにドルビープロロジックIIxを使用すると、"DD PLII" と表示されます(ドルビープロロジックII デコーダーを使用しています)。
- NEO:6　：DTS NEO:6 マトリックスデコーダーを使用しているとき
- SFC　：SFC機能を使用しているとき

● DD DIGITAL EXとDD EXは、サラウンドバックスピーカーを1本接続している設定(➜12、13)にしたときのみ表示されます。

サウンドモードの音響効果については、16ページをご覧ください。

Dolby Pro Logic IIx について(ドルビー プロロジック)
ドルビーサラウンドや2チャンネルのあらゆるソースをよりリアルな音場で再生するために開発されたデコードシステムです。
5.1チャンネルソースにSBを加えた7.1/6.1チャンネルサラウンド音声を楽しめます。サラウンドチャンネルをステレオ音声、フルレンジ(音声帯域が20 Hz～20 kHz)で再生します。

DTS NEO:6 について(ディーティーエス ネオ)
DTS 社が開発したサラウンドデコードシステムです。2チャンネルのステレオソースなどを、多チャンネルで再生します。

2チャンネルソースの高音質機能

■ DUAL AMP(デュアル アンプ)

2チャンネルのステレオ再生中に、使用されていないマルチチャンネル用アンプを利用して、1つのスピーカーを2つのアンプで駆動します。
通常の再生よりも明瞭で高音質なステレオサウンドが楽しめます。

DUAL AMPが働かないとき
●スピーカーが全てOFFの時
●マルチチャンネル再生している時
●ドルビープロロジックIIx、DTS NEO:6、SFCを使用している時(➜16)

機能が働かないときは、DUAL AMPランプが消灯しています。

■ BI-AMP(バイ アンプ)

BI-AMPは、BI-WIREスピーカーの高周波域と低周波域をそれぞれ別のアンプで駆動します。
明瞭で高音質なBI-AMPステレオサウンドが楽しめます。

フロントスピーカーがBI-WIRE対応スピーカーのときのみ

準備 ● BI-WIRE接続していることを確かめる(➜9)
●「**フロントスピーカーの接続の設定**」で、"***BI-WIRE***" にする(➜12、13)

BI-AMPが働くとき
●アナログ入力(DVD 6CH以外)を再生したとき
● 2チャンネルのPCM信号を再生したとき

BI-WIRE設定にしている場合、機能が働かないときはBI-AMPランプが消灯します。

DVDオーディオの再生

■ DVD アナログ 6CH

準備 ● アナログ6CH接続していることを確認する。(➜4または6)
● [SPEAKERS A]またはBI-WIREスピーカーを「入」の状態にして、セレクターを "***DVD***" にする。(➜14)
● DVDレコーダーと接続している場合(➜4)、セレクターを "***DVR***" にしていると、再生できません。"***DVD***" に切り換えてください。

DVD プレーヤー ーアナログ6CH

"***DVD 6CH***" が表示されるまで
押したままにする

DVD 6CH

■解除するには、"***DVD***" が表示されるまで押したままにする

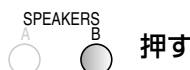
● 本機でのスピーカーの設定(➜12、13、22)は、無効になります。DVDレコーダーやDVDプレーヤー側で、スピーカーの有無やサイズを設定してください。

■ 2チャンネルの高音質を楽しむ

サンプリング周波数が192 kHzで2チャンネルソースのDVDオーディオを高音質なステレオサウンドで楽しめます。

1. "***DVD 6CH***" を解除してください。(➜上記)
2. 「**入力信号の設定**」で、入力信号をアナログに固定してください。(➜12、13)

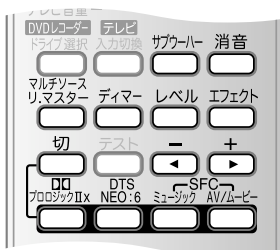
スピーカーBを使う

フロントB端子に接続したスピーカーから音声を出力します。

押す

●スピーカーBは、2チャンネルのみの再生になります。
●スピーカーBのみ選択している場合、デジタル接続で多チャンネル再生すると、「**2CH MIX**」が表示されます。
● A端子に接続したスピーカーの音を消したい場合は、[SPEAKERS A]を押して "A" を消してください。
●DVDアナログ6CHを選択しているときは、フロント2チャンネルの音声が出力されます。

スピーカーBのみ選択している場合、スピーカー設定(➜12、13、22)の内容にかかわらず、以下の動作状態に固定されます。
●スピーカーのサイズ：LARGE(ラージ)　サブウーハー：無し(低域成分はフロントスピーカーから出力されます)

楽しむ
ホームシアターを楽しむ

音質・音場効果/便利な機能

ドルビープロロジックⅡx、DTS NEO:6、SFC が使えない条件については 27 ページをご覧ください。

サウンドモード

サラウンド効果を加えたり、ステレオソースを多チャンネルで聞くことができます。

DOLBY PRO LOGIC Ⅱx（ドルビー プロロジック）

- ステレオソース（音源）を多チャンネルで楽しめます。
- ドルビーデジタルや DTS の 5.1 チャンネルのソース（音源）を 7.1や 6.1 チャンネルで楽しむことができます。
- ドルビーデジタル EX ソースのサラウンドバックチャンネルを有効にします。

● “*GAME*” モードは、入力信号が 2 チャンネルのステレオの場合に使えます。ただし、スピーカー設定をフロントとセンターのみにしている場合は使用できません。

「サラウンドバックスピーカーの設定」（➜12、13）が、“1 SPKR”（1 本接続）で、ドルビーデジタルや DTS の 5.1 チャンネルソース、または、ドルビーサラウンド EX ソースの場合：

MOVIE（ムービー）/***DOLBY EX***	***MUSIC***（ミュージック）	***GAME***（ゲーム）
特にドルビーサラウンドで記録されたものなど、映画ソフトで効果があります。	音楽ソース（音源）で効果があります。	迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しめます。

解除するには 切 **押す**

DTS NEO:6（ディーティーエス ネオ）

- ステレオソース（音源）を多チャンネルで楽しめます。
- ドルビーデジタルや DTS の 5.1 チャンネルのソース（音源）を 6.1 チャンネルで楽しむことができます。

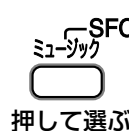
CINEMA（シネマ）	***MUSIC***（ミュージック）
映画ソフトで効果があります。	音楽ソース（音源）で効果があります。

「スピーカーの有無とサイズの設定」（➜22）で、すべてのスピーカーを“*LARGE*”に設定した場合、2 チャンネルのステレオソースに DTS NEO:6 を使用してもサブウーハーから音声は出力されません。

解除するには 切 **押す**

● ドルビーデジタルや DTS の 2 チャンネルソースで、デジタル入力表示の S が点灯する場合、“*CINEMA*” モードのみ使えます。
● ドルビーデジタル、DTS、AAC の 2 チャンネルソースで、デジタル入力表示の S が点灯しない場合、“*MUSIC*” モードのみ使えます。

SFC（Sound Field Control）（サウンドフィールドコントロール）

ドルビーデジタル、DTS、アナログや PCM のソース（音源）に好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンドが楽しめます。

LIVE（ライブ） 大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。 ***POP/ROCK***（ポップ/ロック） ポピュラーやロック音楽に適した効果。	***VOCAL***（ボーカル） ボーカルの声を際立たせる効果。 ***JAZZ***（ジャズ） ジャズクラブのような狭い部屋での音の反響。	***DANCE***（ダンス） ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。

DRAMA（ドラマ） セリフがメインになるようなドラマに適した効果。 ***ACTION***（アクション） 迫力のあるアクション映画に適した効果。	***SPORTS***（スポーツ） スポーツ観戦をしているような臨場感。 ***MUSICAL***（ミュージカル） ミュージカル劇場にいるような臨場感。	***GAME***（ゲーム） 迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。

解除するには 切 **押す**

お知らせ
各モードは、SFC ミュージック または SFC AV/ムービー を押してから、− ◄ + ► を押しても、選べます。

入力ソースとモードの組み合わせにより、音がひずんだように聞こえることがあります。
その場合は、EFFECT 調整（➜17）で効果のレベルを下げるか、上記の操作で他のモードを選んでみてください。

● ドルビープロロジックⅡx、DTS NEO:6、SFC の各モードを同時に使用することはできません。

以下の場合、ドルビープロロジックⅡx、DTS NEO:6、SFC の各モードは解除されます。
● マルチソース リ. マスターを使用したとき（➜17）
● **「スピーカーの有無の設定」、「サラウンドバックスピーカーの設定」、「スピーカーの有無とサイズの設定」**を行ったとき（➜12、13、22）

その他リモコンで行える調整/便利な機能

音響効果をさらに調整する

各モードについては、左ページを参照してください。

DOLBY PRO LOGIC IIx

●**MUSIC** で行えます
（入力ソース（音源）が 2 チャンネルのステレオのときに使用できます）

■ **DIMEN** (Dimension Control)
フロントとサラウンドスピーカーの出力バランスを調整できます。
調整範囲：**-3**（サラウンドが強くなる）～ **+3**（フロントが強くなる）
初期設定： **0**

エフェクト ▶ – +
押して “**DIMEN**” を選び　押して調整する

■ **C-WDTH** (Center Width Control)
フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。
調整範囲：**0**（センターがはっきりする）～ **7**（センターが広がる）
初期設定： **3**

エフェクト ▶ – +
押して “**C-WDTH**” を選び　押して調整する

■ **PANORAMA**
さらなる広がりによって音楽に包まれるような感覚が得られます。
初期設定： **OFF**

エフェクト ▶ – +
押して “**PANORAMA**” を選び　押して “**ON**” または “**OFF**” を選ぶ

DTS NEO:6

● **MUSIC** で行えます

■ **C-IMG** (Center Image Control)
フロントとセンタースピーカーの音を全体的に調整して、より自然な音楽再生ができます。
調整範囲： **0**（センターがはっきりする）～ **5**（センターが広がる）
初期設定： **2**

エフェクト ▶ – +
押して “**C-IMG**” を選び　押して調整する

SFC（Sound Field Control）

●すべてのモードで行えます
（スピーカーごとに調整して好みのサウンドを作ることができます。）

■出力レベルを調整する
C（センター）、**RS**（右サラウンド）、**SBR**（右サラウンドバック）、**SBL**（左サラウンドバック）（サラウンドバック 1 本時は **SB**）、**LS**（左サラウンド）
調整範囲：**–10 dB** ～ **+10 dB**

SW（サブウーハー）
調整範囲：**---**（切）、**MIN**（最小）、**1** ～ **19**、**MAX**（最大）

レベル ▶ – +
押して、各スピーカーを選び　押して調整する

■効果の強弱を調整する
調整範囲： **EFFECT 1**（最小）～ **EFFECT 10**（最大）
初期設定： **EFFECT 5**

エフェクト ▶ – +
押す　押して調整する

お知らせ
「スピーカーの有無の設定」で、無しに設定しているスピーカーは調整できません。（➔12、13）

サブウーハーレベルの調整

ソース（音源）を再生中に出力レベルを調整できます。重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みにあわせて調整できます。

サブウーハー
押して選ぶ　SW 10

---（切）、**MIN**（最小）、**5**、**10**、**15**、**MAX**（最大）

● 現在の設定が表示されます。
● 初期設定は “**SW 10**” です。
● “**---**” を選ぶとサブウーハーから音は出ません。

お知らせ
●サブウーハーレベルが高い状態で本機の音量を上げると、サブウーハーから出力される音がひずんで聞こえることがあります。この場合はサブウーハーレベルを下げてください。
●細かく設定したいときは、**「スピーカー出力の確認と調整」**で、出力レベルを調整してください。（➔13）
●DVD アナログ 6 CH が選ばれている場合は、この機能は使えません。（➔15）

より自然な音で聞く（マルチソース リ. マスター）

ソース（音源）に記録されていない高い周波数信号を付け加えることで、より自然で豊かな音質が楽しめます。

マルチソース リ.マスター
押して選ぶ
表示部に “**RE-MASTER**” と表示されます。
EFFECT 1

EFFECT 1：テンポの速い曲（ポップスやロックなど）
EFFECT 2：さまざまなテンポの曲（ジャズなど）
EFFECT 3：ゆっくりした曲（クラシックなど）
EFFECT 4：圧縮して記録された音楽ディスクなど
OFF：　切（初期設定）

お知らせ
● DTS 96/24 、または PCM のサンプリング周波数が 48 kHz を超える場合は使用できません。

以下の場合、マルチソース リ. マスターは解除されます。
●ドルビープロロジックIIx、DTS NEO:6、SFC を使用したとき
●**「スピーカーの有無の設定」**、**「サラウンドバックスピーカーの設定」**、**「スピーカーの有無とサイズの設定」**を行ったとき（➔12、13、22）

一時的に音を消す

機能が働いている間、表示部に “**MUTING IS ON** ” と繰り返し表示（スクロール）されます。

消音
押す　MUTING I
●もう一度押すと、解除されます。

お知らせ
電源を切ると、消音は解除されます。

表示部を暗くする（ディマー）

ディマー
押す
表示部が暗くなります。
●もう一度押すと、解除されます。

お知らせ
本体操作で、表示部の明るさの調整ができます。（➔18）

音質・音場効果/便利な機能（つづき）

マルチコントロールで行える調整/便利な機能

1 マルチコントロールモードに入る

MULTI CONTROL（CANCEL） 押す　MULTI CONTROL

2 各設定を行う

音質の調整

BASS（低音）と *TREBLE*（高音）を調整できます。

1. “*TONE*” を選び、決定　TONE
2. “*BASS*” または “*TREBLE*” を選び、決定　BASS
   BASS、*TREBLE*
3. 調整し、決定　0dB
   –10 dB ～ *+10 dB*

音量バランスの調整

左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。
L：左フロント　*R*：右フロント

1. “*BALANCE*” を選び、決定　BALANCE
2. 調整し、決定　L ▼ R
   - バーの表示は目安です。

表示部の明るさを調整する

部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。
LEVEL 1（明）から *LEVEL 3*（暗）の間で調整できます。

1. “*DIMMER*” を選び、決定　DIMMER
2. “*ON*” を選び、決定　ON
   - 解除するには “*OFF*” を選ぶ
   OFF（切）、*ON*（入）
3. 設定を選び、決定　LEVEL 2
   LEVEL 1、*LEVEL 2*、*LEVEL 3*

- 本体とリモコンの操作時は、一時解除されます。

スリープタイマー

設定した時間が経過すると自動的に電源が切れます。就寝時などに便利です。30、60、90、120 分の設定ができます。

1. “*SLEEP*” を選び、決定　SLEEP
2. 時間を選び、決定　OFF
   OFF、*30*、*60*、*90*、*120*

- 解除するには “*OFF*” を選ぶ
- 設定すると表示部に “**SLEEP**” が表示されます。
- 一度設定すると、手順 2.で残り時間が表示されます。
- 設定をやり直すには、手順 2.でもう一度時間を設定してください。

二重音声の切り換え

BS デジタル放送の AAC 信号やドルビーデジタル、DTS の二重音声を切り換えることができます。（二重音声信号を受信すると表示部に “*DUAL*” と表示されます。）

1. “*OPTION*” を選び、決定　OPTION
2. “*DUAL PRG*” を選び、決定　DUAL PRG
3. 音声を選び、決定　MAIN
   MAIN：主音声　*SUB*：副音声
   MAIN+SUB：主＋副音声

小音量でも聞きやすくする

音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすい音にします。深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

ダイナミックレンジの圧縮に対応したドルビーデジタルのみ

1. “*OPTION*” を選び、決定　OPTION
2. “*DR COMP*” を選び、決定　DR COMP
3. 設定を選び、決定　OFF

OFF：通常の再生
STANDARD：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル
MAX：深夜視聴を前提とした最大の圧縮

3 “*EXIT*” を選び、決定

数回押す　EXIT

●マルチコントロールのメニューと初期設定の状態については 26 ページを参照ください。

アッテネーターの切り換え

アナログ入力で再生中、音がひずみ、表示部に “***OVERFLOW***” が点灯した場合は “***ON***（入）” にしてください。

1. “***OPTION***” を選び、決定　OPTION
2. “***A/D ATT***” を選び、決定　A/D ATT
3. “***ON***” を選び、決定　ON

OFF（切）、***ON***（入）

●解除するには “***OFF***” を選ぶ

購入時の状態に戻す（RESET（リセット）機能）

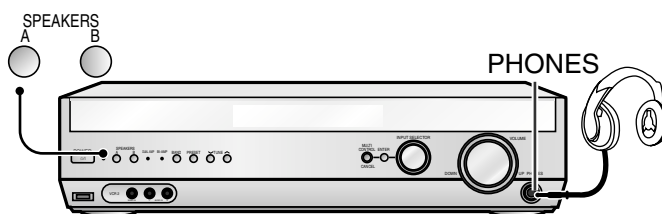
メモリーしたラジオのチャンネル（➔21）を除くすべての設定を購入時の状態に戻します。
必要に応じて再度設定を行ってください。

●リセットすると、入力ソースはラジオ(プリセットチャンネル 1）になります。

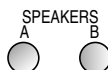
1. “***OPTION***” を選び、決定　OPTION
2. “***RESET***” を選び、決定　RESET
3. “***YES***” を選び、決定　YES

YES、***NO***

●中止するには “***NO***” を選ぶ

ヘッドホンを使う

ヘッドホン (別売り) 推奨品：RP-HT530、RP-HT242

1 すべてのスピーカーを「切」にする

SPEAKERS A B　押して “**A**” “**B**” を消す

— SPEAKERS —

（BI-WIRE 接続の場合）

— SPEAKERS — BI-WIRE

2 音量を下げ、ヘッドホンを接続する

●プラグタイプ：ステレオ大型（M6）

3 音量を調整する

●耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。
●すべてのスピーカーを「切」にすると、2 チャンネルのみの再生になり、多チャンネルソース（音源）は、強制的に 2CH MIX になります。
●アナログ 6CH 接続で再生しているときは、フロント 2 チャンネルの音声が出力されます。

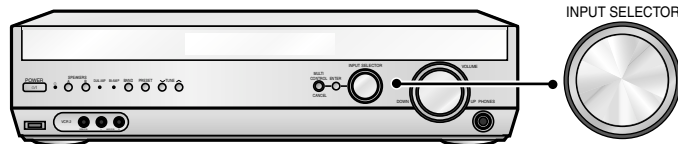
別売り品の品番は、2005 年 2 月現在のものです。
品番は変更されることがあります。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。 特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット
シンボルマーク

録音・録画

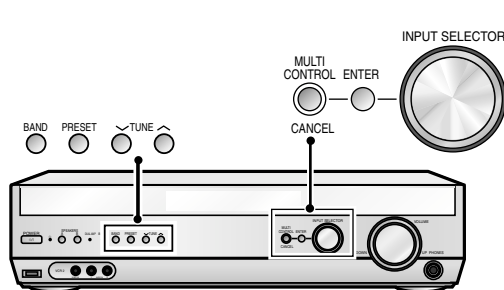
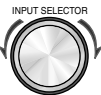
●本機の “DVD レコーダー” 端子に接続した DVD レコーダーに録音・録画できます。（➔4、5）
●本機の “テープ” 端子に接続したカセットデッキに録音できます。（➔10）
●録音、録画、再生機器の説明書もご覧ください。

1 録音・録画するソース（音源）を選ぶ

回す

2 録音・録画を始める

3 録音・録画するソース（音源）の再生を始める

●“テープ 再生（入力）” 端子の音声は、“テープ 録音（出力）” 端子から出力されません。
●“DVD レコーダー” 入力端子の音声は、“DVD レコーダー” 出力端子から出力されません。
●デジタル信号を “テープ” 端子や “DVD レコーダー” 端子へ出力することはできません。アナログ接続して “***ANALOG***” を選んでください。（➔4、10、12、13）
● DVD でアナログ 6CH 入力を選んだ場合は、フロント 2 チャンネルの音声しか録音できません。
●コピーガードされた DVD などは DVD レコーダーに録画できません。

ラジオを聞く

周波数を合わせて放送局を選ぶ

リモコンで操作する

数字ボタンを使って直接放送局を指定できます。

1 ***"TUNER"* を選ぶ**

ラジオ –バンド 押す　TUNER

2 ***"FM"* または *"AM"* を選ぶ**

ラジオ –バンド　バンドが切り換わるまで押したままにする　FM 76.0 MHz

3 **ダイレクトチューニングモードにする**

ダイレクトチューニング ⑪ 押す

4 **周波数を入力する**

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩/0

約 10 秒の間に押す
（カーソルが点滅しています）
例：88.1 MHz に合わせる
⑧ → ⑧ → ① を押す。

- 周波数が正しく入力されると、周波数が一度点滅し、その後、点灯状態になります。
- 受信できない周波数を入力すると "***ERROR***" が表示されます。もう一度入力し直してください。

本体で操作する

1 ***"TUNER"* を選ぶ**

TUNER

2 ***"FM"* または *"AM"* を選ぶ**

BAND 押す

3 **好みの放送局を受信する**

押す

TUNED：正確に受信すると点灯
ST：FM ステレオ放送を受信すると点灯

■自動的に選局するには（オートチューニング）
ボタンを長く押し、周波数表示が変わり始めたら指を離す

- 最初に受信した放送局で自動停止します。
- オートチューニング中、周囲に電波妨害があると、放送局を受信せずに停止することがあります。

お知らせ

- ラジオ受信中に本機や DVD レコーダーなどの各機器の影響で、ノイズが発生することがあります。そのときは 各機器の電源を切るか、AM ループアンテナを各機器（本機を含む）からできるだけ離してください。

ラジオ受信中に雑音が多いとき

■ FM ステレオ放送で雑音が多いとき（FM モード）

モノラル音声に切り換えて、雑音を減らします。

1. **マルチコントロールモードに入る**
   MULTI CONTROL / CANCEL 押す　MULTI CONTROL
2. ***"TUNER"* を選び、決定**　TUNER
3. ***"FM MODE"* を選び、決定**　FM MODE
4. ***"MONO"* を選び、決定**　MONO　***AUTO*、*MONO***
   ■解除するには "***AUTO***" を選ぶ
- モノラル音声に設定すると表示部に "**MONO**" が点灯します。
5. MULTI CONTROL / CANCEL 2 回押して、***"EXIT"* を選び、決定**　EXIT

お知らせ

- モノラル音声に設定した状態で、放送局を変更したり、ソースを切り換えたり、電源を切ったりするとモノラルの設定は解除されて、"***AUTO***" に戻ります。
- "***MONO***" で記憶させたプリセットチャンネル（➔21）を受信しているとき、一時的に "***AUTO***" に切り換えることはできます。プリセットチャンネルの設定は変更できません。

■ AM 放送で雑音が多いとき（ビートプルーフ モード）

1. **マルチコントロールモードに入る**
   MULTI CONTROL / CANCEL 押す　MULTI CONTROL
2. ***"OPTION"* を選び、決定**　OPTION
3. ***"B PROOF"* を選び、決定**　B PROOF
4. ***"MODE A"* または *"MODE B"* を選び、決定**
   - 雑音の少ないモードを選んでください。

   MODE A　***MODE A*、*MODE B***
5. MULTI CONTROL / CANCEL 2 回押して、***"EXIT"* を選び、決定**　EXIT

●マルチコントロールのメニューと初期設定の状態については 26 ページを参照ください。

放送局を記憶させて聞く

本機のプリセットチャンネルに周波数をメモリー（最大 30 局）すると、受信が簡単になります。

自動で記憶させる（オートメモリー） 本体操作のみ

受信できる放送局を低い周波数から順に自動で記憶していきます。
FM 局： 1 ～ 30 チャンネルに記憶
AM 局： 21 ～ 30 チャンネルに記憶
●必ず先に FM 局から行ってください。逆にすると AM 局のメモリーが消えてしまいます。

1. ***FM*** **の場合は 76.0 MHz、** ***AM*** **の場合は 522 kHz に合わせる**
2. **マルチコントロールモードに入る**
   MULTI CONTROL CANCEL 押す
   MULTI CONTROL
3. **"*TUNER*" を選び、決定**
   TUNER
4. **"*AUTO MEM*" を選び、決定**
   AUTO MEM
5. **"*START*" を選び、決定**
   START
   START*、*CANCEL
   ●中止するには "***CANCEL***" を選ぶ

●オートメモリーが始まり、"M" が点滅します。
●放送局が記憶されるとメモリーしたチャンネルと "M" 表示が約 1 秒間点灯します。
●オートメモリーが終了すると、最後に記憶された放送局の周波数が表示されます。

お知らせ
電波が弱い、あるいは強すぎるなどの理由で正確にオートメモリーできないことがあります。その場合はマニュアルメモリーを行ってください。

手動で記憶させる（マニュアルメモリー） 本体操作のみ

好みの放送局を好みのチャンネルに記憶できます。

1. **好みの放送局を受信する**
2. **マルチコントロールモードに入る**
   MULTI CONTROL CANCEL 押す
   MULTI CONTROL
3. **"*TUNER*" を選び、決定**
   TUNER
4. **"*MEMORY*" を選び、決定**
   MEMORY
5. **記憶させるチャンネルを選び、決定**
   CH 1
   CH 1 **～** ***CH 30***
   ●チャンネルを決定すると "***STORED***" が表示されます。

   お知らせ
   ●続けてメモリーする場合は手順 1 から行ってください。
   ●放送受信を "**MONO**" に設定した状態もメモリーできます。（➜20）
6. MULTI CONTROL CANCEL **2 回押して、"*EXIT*" を選び、決定**
   EXIT

メモリーした放送局を聞く リモコンで操作

■チャンネルを切り換える

チャンネル 押す　CH 1

（または）

■数字ボタンでチャンネルを入力する

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10/0 ≧10 押す　CH 1

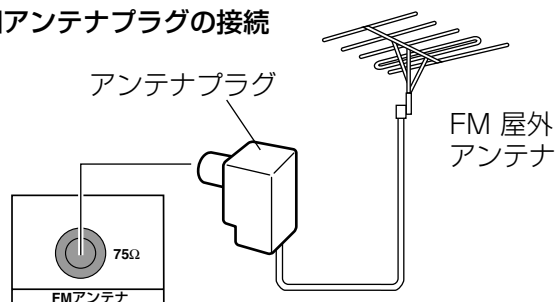
チャンネル 10 以上の選び方
例：10 ≧10 → 1 → 10/0
25 ≧10 → 2 → 5

メモリーした放送局を聞く 本体で操作

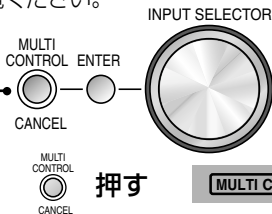
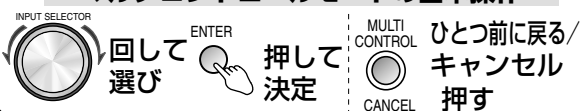
1. **プリセットボタンを押す**
   PRESET 押す
2. **チャンネルを選ぶ**
   TUNE 押す
   CH 1
   ●約 5 秒間の点滅のあと、確定します。
   ●ボタンを押したままにすると、チャンネルを早送りできます。

FM 屋外アンテナの利用

●山間部や鉄筋コンクリート建てのビルの中などで、電波を受信しにくい場合は、屋外アンテナを接続してください。
●アンテナ線（同軸ケーブル）をアンテナプラグ（市販）に取り付けて、後面に接続します。付属の FM アンテナは外してください。

■アンテナプラグの接続

お知らせ
分配器でテレビのアンテナと本機に接続する FM 屋外アンテナを共用すると、テレビ画面の乱れの原因になる場合があります。

設定する（応用）

基本的な設定をするには、12、13ページをご覧ください。

1 マルチコントロールモードに入る　MULTI CONTROL / CANCEL　押す　MULTI CONTROL

2 *"SETUP 2"* を選ぶ
（*"ADVANCE SETUP"* と表示が流れます）　SETUP 2

"距離の設定"を行う場合は、あらかじめ各スピーカーと視聴位置との距離を測っておいてください。
スピーカーの設置と視聴位置については8ページをご覧ください。

3 各設定を行う

スピーカーの有無とサイズの設定

スピーカーにより、再生できる周波数帯域は異なります。特に低音域を不足することなく再生させるためにサイズの設定を行います。
- サイズを"**SMALL**"に設定した場合、低域フィルターの設定を行ってください。（➜ 下記）

下記の場合、自動的に設定されます
- ***FRONT*** を"***SMALL***"にすると ***SUB-WFR*** は"***YES***"
- ***SUB-WFR*** を"***NO***"にすると、***FRONT*** は"***LARGE***"
- 「スピーカーの有無の設定」（➜ 12、13）で設定されたサブウーハーの有無も連動して、切り換わります。

1. *"SPEAKERS"* を選び、決定　SPEAKERS
2. スピーカーを選び、決定　SUB-WFR
   SUB-WFR、***FRONT***、***CENTER***、***SURROUND***、***SUR BACK***
3. 設定を変更し、決定　YES

SUB-WFR（サブウーハー）
　YES：接続している　***NO***：接続していない
FRONT（フロント）/ ***CENTER***（センター）/ ***SURROUND***（サラウンド）
　NONE（センター、サラウンドのみ）：接続していない
　LARGE：100 Hz 以下の低音域が十分に再生できるスピーカーを接続している
　SMALL：LARGE の条件に満たないスピーカーを接続している
SUR BACK（サラウンドバック）
　NONE：接続していない　***1 SPKR***：1本接続している　***2 SPKRS***：2本接続している

フロントスピーカーを"*LARGE*"にした場合のお知らせ
- アナログや PCM をステレオで再生している場合、サブウーハーから音声が出力されます。
- ドルビーデジタル、DTS、AACの2チャンネルソースをステレオで再生している場合、ソースに含まれるLFE（重低音効果チャンネル）信号以外は、サブウーハーから出力されません。

距離の設定

本機は、フロント/センター/サラウンド/サラウンドバックスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、視聴位置に届く音の遅延時間を自動的に算出し、補正します。

1. *"DISTANCE"* を選び、決定　DISTANCE
2. スピーカーを選び、決定　FRONT　（***FRONT***、***CENTER***、***SURROUND***、***SUR BACK***）
3. 距離を設定し、決定　3.0 m　（***1.0m～10.0m***）

低域フィルターの設定

スピーカーのサイズを"***SMALL***"に設定した場合のみ行ってください。

スピーカーが"***SMALL***"の場合は低音域を十分に再生することができません。再生できる周波数に応じて低域フィルターの周波数を設定し、不足している低音域をサブウーハーに出力させます。

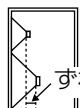
1. *"FILTER"* を選び、決定　FILTER
2. 低域フィルターの周波数を選び、決定　100

"***SMALL***"にした全てのスピーカーに設定されます。

80：80 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる
100：100 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる
150：150 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる
200：200 Hz 以下の低音域をサブウーハーに出力させる

バイアンプの設定

フロントスピーカーを BI-WIRE に設定している場合に表示されます。（➜12、13）

BI-WIRE 接続スピーカーの HF（高域）と LF（低域）の出力バランスを調整します。
また、スピーカーの HF（高域）と LF（低域）のずれによる音声の遅延時間を補正します。

ずれ　スピーカー（横側、断面図）

バランスの調整
1. *"BI-AMP"* を選び、決定　BI-AMP
2. *"BALANCE"* を選び、決定　BALANCE
3. 調整し、決定　L　H
   H：HF（高域）　L：LF（低域）
   - バーの表示は目安です。

HFとLFのずれ補正
1. *"BI-AMP"* を選び、決定　BI-AMP
2. *"HF PHASE"* を選び、決定　HF PHASE
3. 調整し、決定　0 mm　（***0～300 mm***）
   - 10 mm ごとに切り換えられます。

4 *"EXIT"* を選び、設定を終える

MULTI CONTROL / CANCEL　数回押して　EXIT　選び　ENTER　押す

お知らせ
本機の電源を切っても、設定の内容は記憶されます。

リモコンでテレビやDVDレコーダーなどを操作する

本機の他、**当社製**の テレビ、DVD プレーヤー、DVD レコーダー、ビデオデッキ、および CD プレーヤーを本機のリモコンで操作できます。(ただし操作のできない機種もあります。)各操作についてくわしくは、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

操作する機器に向けて

テレビ

操作	ボタン
本機の入力を "*TV*" に切り換える/リモコンをテレビ操作モードに切り換える	テレビ テレビ操作の前に必ず行ってください。
テレビの電源を入/切する	AVシステム 電源
テレビのテレビ/ビデオ入力を切り換える	テレビ 入力切換
テレビの音量を調整する	サブメニュー/プレイリスト(テレビ音量－)　リターン 戻る(テレビ音量＋)
地上デジタル放送に切換える	地上-デジタル ▶▶I スキップ
BS 放送に切換える	BS ◀◀
CS 放送に切換える ●押すたびに、CS1 と CS2 が切り換わります。	CS1/2 ▶▶
アナログ放送に切換える	アナログ-地上 I◀◀ スキップ
プリセットチャンネルを選ぶ	(順に選ぶとき) チャンネル ∧ ∨ (直接選ぶとき) ①〜⑫

■テレビのチャンネルが操作できない場合は
地上アナログのみ対応のテレビの場合、他の放送切り換えボタンを押すと、テレビのチャンネルが操作できなくなります。
再度、[アナログ-地上] ボタンを押して、アナログ放送に切り換えてください。

DVD プレーヤー

操作	ボタン
本機の入力を "*DVD*" に切り換える/リモコンを DVD プレーヤー操作モードに切り換える	DVD プレーヤー(－アナログ6CH) DVD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
DVD プレーヤーの電源を入/切する	AVシステム 電源
トラックやチャプターを飛び越す(スキップ)	I◀◀ ▶▶I スキップ
見たい場所を探す(サーチ)	◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
スロー再生	一時停止 ▼ ◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
再生を始める	再生
再生ナビ(またはトップメニュー)を表示する	再生ナビ(トップメニュー)
サブメニュー/プレイリストを表示する	サブメニュー/プレイリスト(テレビ音量－)
機能選択画面を表示する	機能選択
前の画面に戻る	リターン 戻る(テレビ音量＋)
項目を選ぶ [再生ナビ、トップメニュー]、[サブメニュー/プレイリスト] や [機能選択] を押した後に操作してください。	▲ ▼ ◀ ▶
選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	①〜⑫ 例:1 ① 例:10 ⑫(≧10) → ① → ⑩/0 ●数字ボタンを押した後、[決定]を押して実行する機種もあります。
一時停止する	一時停止
コマ戻し/コマ送りする	一時停止 ▼ ◀ ▶
再生を停止する	停止

お知らせ

●当社製の DVD プレーヤーには、**[機能選択]**ボタンで、**「画面表示 (DISPLAY)」**機能が動作する機種もあります。

リモコンでテレビやDVDレコーダーなどを操作する（つづき）

DVD レコーダー

操作する機器に向けて

操作	ボタン
本機の入力を"DVR"に切り換える/リモコンを DVD レコーダー操作モードに切り換える	DVD レコーダー DVD レコーダー操作の前に必ず行ってください。
DVD レコーダーの電源を入/切する	AVシステム 電源
トラックやチャプターを飛び越す（スキップ）	⏮ ⏭ スキップ
見たい場所を探す（サーチ）	◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
スロー再生	一時停止 ▼ ◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
再生を始める	再生 ▶
再生ナビ（またはトップメニュー）を表示する	再生ナビ トップメニュー
サブメニュー/プレイリストを表示する	サブメニュー/プレイリスト テレビ音量−
機能選択画面を表示する	機能選択
前の画面に戻る	リターン 戻る テレビ音量+

操作	ボタン
項目を選ぶ [再生ナビ、トップメニュー]、[サブメニュー/プレイリスト] や [機能選択] を押した後に操作してください。	▲ ◀ ▶ ▼
選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩/0 ⑫≧10 例：1 ① 例：10 ⑫≧10 → ① → ⑩/0 ●数字ボタンを押した後、[決定]を押して実行する機種もあります。
一時停止する	一時停止 ❚❚
コマ戻し/コマ送りする	一時停止 ❚❚ ▼ ◀ ▶
DVD レコーダーのドライブ（ハードディスク、ディスク、SD など）を切り換える	DVDレコーダー ドライブ選択 **切り換わらないときは** DVD レコーダー側が、本機のリモコンの出す信号を認識していない可能性があります。 下記の操作で信号を変更して、もう一度切り換えてみてください。 1. [DVD レコーダー]を押す 2. [決定]を押しながら、[8]を約 2 秒押したままにする もとに戻す場合は： 上記 2 の操作で、[決定]を押しながら、[9]を約 2 秒押したままにする
再生を停止する	停止 ■

本機のリモコンで当社製の DVD レコーダーを操作する場合は

DVD レコーダーと本機のリモコンのリモコンモードを一致させてください。
DVD レコーダーのリモコンモードに合わせて、本機のリモコンモードを切り換えます。

押したまま

「1」、「2」または「3」を
2 秒以上押したままにする

●押した数字ボタンに応じて、「モード 1」、「2」または「3」がリモコン側に設定されます。
●初期設定は、「モード 1」です。

操作する機器に向けて

ビデオデッキ

本機の入力を"VCR1"に切り換える/リモコンをビデオデッキ操作モードに切り換える	ビデオ ビデオデッキ操作の前に必ず行ってください。
ビデオデッキの電源を入/切する	AVシステム 電源
再生を始める	再生 ▶
巻き戻し/早送りをする	◀◀ ▶▶ スロー/サーチ
一時停止する	一時停止 ❚❚

再生を停止する	停止 ■
チャンネルを選ぶ	(順に選ぶとき) チャンネル (直接選ぶとき) ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩/0 ⑪ ⑫ ダイレクトチューニング ≧10

CD プレーヤー

本機の入力を"CD"に切り換える/リモコンを CD プレーヤー操作モードに切り換える	CD CD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
CD プレーヤーの電源を入/切する	AVシステム 電源
再生を始める	再生 ▶
トラックを飛び越す(スキップ)	❙◀◀ ▶▶❙ スキップ
聞きたい場所を探す(サーチ)	◀◀ ▶▶ スロー/サーチ

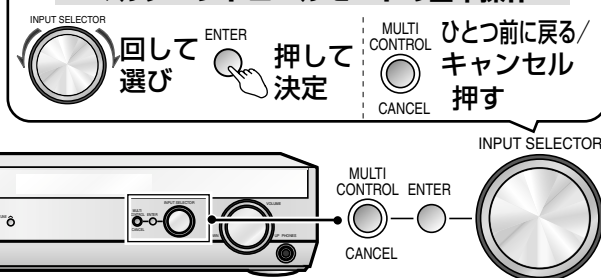
一時停止する	一時停止 ❚❚
トラックを直接選ぶ	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩/0 ⑫ ≧10 例:1 ① 例:10 ⑫(≧10) → ① → ⑩/0
再生を停止する	停止 ■

本機のリモコンで、複数の機器(当社製)が動作するときは

2つ以上の当社製オーディオ機器を同時に使う場合に、本機のリモコンを使用すると、複数の機器が動作する場合があります。その場合は、本機のリモコンコードを"*REM2*"に切り換えてください。本機とリモコンの両方を設定します。

本機側操作

マルチコントロールモードの基本操作

INPUT SELECTOR 回して選び　ENTER 押して決定　MULTI CONTROL CANCEL ひとつ前に戻る/キャンセル 押す

1. マルチコントロールモードに入る　MULTI CONTROL CANCEL 押す　【MULTI CONTROL】
2. "*SETUP 2*(*ADVANCE SETUP*)"を選び、決定　【SETUP 2】
3. "*REMOTE*"を選び、決定　【REMOTE】
4. "*REM2*"を選び、決定　*REM1、REM2*　【REM2】
5. MULTI CONTROL CANCEL 2回押して、"*EXIT*"を選び、決定　【EXIT】

リモコン側操作

1. [ラジオ/−バンド] ボタンを押す
2. 決定 と ② を同時に2秒以上押す

■「REM1」に戻すには
(本機側操作)
　左記操作4で"*REM1*"を選ぶ
(リモコン操作側)
　[決定] と [1] を同時に2秒以上押す

マルチコントロールのメニュー表

　　　　は、初期設定の状態です。

メインメニュー	サブメニュー			ページ
TUNER (入力ソースを "**TUNER**"（ラジオ）にしているときのみ)	FM MODE※1	AUTO、MONO		20
	MEMORY	CH 1……CH 30		21
	AUTO MEM	START、CANCEL		
TONE	BASS	–10 dB… 0 dB …+ 10 dB		18
	TREBLE			
BALANCE	L|▽R、L▽R、L▽|R			
DIMMER	OFF			
	ON	LEVEL 1、LEVEL 2、LEVEL 3		
SLEEP	OFF、30、60、90、120			
OPTION	DUAL PRG	MAIN、SUB、MAIN+SUB		
	DR COMP	OFF、STANDARD、MAX		
	A/D ATT	OFF、ON		19
	B PROOF※2	MODE A、MODE B		20
	RESET	NO、YES		19
SETUP 1 (BASIC SETUP)	SPKR SET	SUBW NO	LCR S SB、L_R S SB、LCR S _ _、L_R S _ _、LCR _ _ _、L_R _ _ _	12、13
		SUBW YES		
	FRNT L/R	NORMAL、BI-WIRE		
	SB SPKR	1 SPKR、2 SPKRS		
	D-INPUT	TV	OPT 1、OPT 2、COAX 1、COAX 2	
		DVR	OPT 1、OPT 2、COAX 1、COAX 2	
		DVD	OPT 1、OPT 2、COAX 1、COAX 2	
		CD	OPT 1、OPT 2、COAX 1、COAX 2	
	IN MODE	TV	AUTO、ANALOG、DIGITAL、PCM FIX	
		DVR		
		DVD		
		CD		
SETUP 2 (ADVANCE SETUP)	SPEAKERS	SUB-WFR	NO、YES	22
		FRONT	SMALL、LARGE	
		CENTER	NONE、SMALL、LARGE	
		SURROUND		
		SUR BACK	NONE、1 SPKR、2 SPKRS	
	DISTANCE	FRONT	1.0 m… 3.0 m …10.0 m	
		CENTER		
		SURROUND	1.0 m… 1.5 m …10.0 m	
		SUR BACK		
	FILTER	80、100、150、200		
	BI-AMP※3	BALANCE	L|▽H、L▽H、L▽|H	
		HF PHASE	0 mm …300 mm	
	REMOTE	REM 1、REM 2		25
EXIT	●マルチコントロールを終了します。			

※ 1 ：ラジオ FM 受信時のみ　※ 2 ：ラジオ AM 受信時のみ　※ 3 ： BI-WIRE 選択時のみ

Q & A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本機には接続できません。
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。(➔ 6、12、13)
DTS の音声が出ない。 音声は出るが DTS のサウンドモード表示が点灯しない。	DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定が、ビットストリーム出力であることを確かめてください。
48 kHz を超えるサンプリング周波数の DVD を再生しても音が出ない。	著作権保護の理由などでデジタル接続では音声が出ないディスクがあります。アナログ接続してください。
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、本体上部や側面の放熱孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

故障かな！？

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを確認・処置してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	9
	機器の再生を始めても音や映像が出ない。または音がおかしい。	● スピーカー表示が消灯している場合は、[SPEAKERS A または B] ボタンでスピーカーを選択してください。 ● 入力ソースを正しく選択してください。 ● 「消音」を解除してください。 ● 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。 ● スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 ● デジタル入力端子の設定を確認してください。 ● PCM FIX モードを解除してください。 ● DVD オーディオでは、著作権の関係上、デジタルで音声が出力できない場合があります。	14 14 17 14 4～10 12、13 12、13 –
	音が出なくなった。（“***OVERLOAD***”が約 1 秒間表示される。） 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります。	● スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 ● スピーカーインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ➡ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。（保護回路の動作が解除されます。）（それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。）	8 9 – –
	F 76 が表示され、電源が切れる。	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
	U12 が表示される。	● リモコンモードを設定し、本機とリモコンのモードを合わせてください。	25
	表示部が暗い。	● “***DIMMER***”を解除してください。	17、18
	再生中、カチッと音がする。	● DVD などを再生すると、入力信号により DUAL AMP 機能が自動的に切り換わります。その際、カチッと音がしますが、故障ではありません。	15
サウンドモード	センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーから音が聞こえない。	● スピーカーの有無、サブウーハーの有無、またはスピーカーの有無とサイズの設定を確かめてください。 ● サウンドモードを確かめ、適切なモードを選んでください。 ● 2 チャンネルのステレオソースの場合は、ドルビープロロジック IIx 、DTS NEO:6、SFC を使用してください。	12、13、22 16、17 16
	サラウンドバックスピーカーから音が聞こえない。	● スピーカーの有無、またはスピーカーの有無とサイズの設定、サラウンドバックスピーカーの設定を確かめてください。 ● ドルビープロロジック IIx、DTS NEO:6、SFC を使用してください。	12、13、22 16
	ドルビープロロジック IIx や DTS NEO:6、SFC が使えない	● DVD アナログ 6CH を解除してください。	15
	BS デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない	● BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	–
	SFC を使用中に音がひずんだように聞こえる	● 入力ソースによっては、EFFECT のレベルを上げると音がひずんだように聞こえることがあります。その場合は、EFFECT レベルを下げてください。	17
ラジオ	受信できない。 雑音やひずみが多い。	● アンテナの向きや位置を変えてみてください。 ● 音質の調整で、高音（“***TREBLE***”）を調節してみてください。 ● 本機、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、テレビやビデオデッキから AM ループアンテナを離してください。 ● FM 屋外アンテナに替えてみてください。 ● アンテナと他のコードを遠ざけてください。 ● AM 受信の場合、「ビートプルーフ モード」でモードを切り換えてみてください。	– 18 – 21 – 20
リモコン	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	11
	他のオーディオ機器が動作する	● 本機のリモコンコードを “***REM2***” に切り換えてください。	25

■ サウンドモード（ドルビープロロジック IIx 、DTS NEO:6、SFC）が使えない条件

スピーカー設定と入力信号（ディスクなどに記録されている音声信号）によっては、各機能が使えません。

スピーカー設定と入力信号が以下の場合

- スピーカー設定：フロントのみ ＋ 入力信号：すべて
- スピーカー設定：フロントとセンターのみ ＋ 入力信号：多チャンネルソース

→ ドルビープロロジック IIx DTS NEO:6 SFC は使えない

- スピーカー設定：サラウンドバックなし ＋ 入力信号：多チャンネルソース

→ ドルビープロロジック IIx DTS NEO:6 は使えない

入力信号が以下の場合

- 1 チャンネル（Ⓒのみ点灯）
- 3 チャンネル（Ⓛ Ⓒ Ⓡ のみ点灯）
- サラウンド音声がモノラル（Ⓢ点灯。ただし 2 チャンネルソースは除く）
- サンプリング周波数が 96 kHz を超える PCM

→ ドルビープロロジック IIx DTS NEO:6 SFC は使えない

- DTS-ES
- DTS 96/24-ES

→ ドルビープロロジック IIx DTS NEO:6 は使えない

● Ⓛ Ⓡ などはデジタル入力信号を表しています。15 ページの「デジタル入力表示について」を参照ください。

主な仕様

■ アンプ部

項目	仕様
実用最大出力（サラウンドモード　各 ch 動作時）	
フロント(L/R)	100 W ＋ 100 W (6 Ω, JEITA)
センター	100 W (6 Ω, JEITA)
サラウンド(L/R)	100 W ＋ 100 W (6 Ω, JEITA)
サラウンドバック(L/R)	100 W ＋ 100 W (6 Ω, JEITA)
定格出力(サラウンドモード　各 ch 動作時)	
フロント(L/R)	70 W ＋ 70 W (1 kHz 6 Ω 0.3 %)
センター	70 W (1 kHz 6 Ω 0.3 %)
サラウンド(L/R)	70 W ＋ 70 W (1 kHz 6 Ω 0.3 %)
サラウンドバック(L/R)	70 W ＋ 70 W (1 kHz 6 Ω 0.3 %)
実用最大出力（ステレオ時）	100 W ＋ 100 W (6 Ω, JEITA)
定格出力(ステレオ時)	70 W ＋ 70 W (20 Hz ～ 20 kHz 6 Ω 0.09 %)
全高調波ひずみ率	
20 Hz ～ 20 kHz 定格出力	0.09 % (6 Ω)
負荷インピーダンス	
フロント(L/R)	
A または B	6 ～ 16 Ω
A と B	6 ～ 16 Ω
BI-WIRE	6 ～ 16 Ω
センター	6 ～ 16 Ω
サラウンド(L/R)	6 ～ 16 Ω
サラウンドバック(L/R)	6 ～ 16 Ω
周波数特性	
CD, テープ, TV, DVD, DVD レコーダー, ビデオデッキ 1, VCR 2	4 Hz ～ 88 kHz, ±3 dB
DVD 6CH	4 Hz ～ 44 kHz, ±3 dB
入力感度/入力インピーダンス	
CD, テープ, TV, DVD/DVD 6CH, DVD レコーダー, ビデオデッキ 1, VCR 2	200 mV/22 kΩ
信号対雑音比(S/N 比)	
CD, TV, DVD, DVD レコーダー(DIGITAL INPUT)	103 dB
トーンコントロール特性	
低音	50 Hz, +10 ～ −10 dB
高音	20 kHz, +10 ～ −10 dB
定格出力電圧	
テープ出力	200 mV
DVD レコーダー出力	200 mV

項目	数
デジタル入力 (光)	2
(同軸)	2

■ FM チューナー部

項目	仕様
受信周波数帯	76.0 ～ 90.0 MHz
実用感度	16.3 dBf (3.6 μV, IHF '58)
全高調波ひずみ率	
MONO	0.3 %
STEREO	0.5 %
ステレオセパレーション	
1 kHz	35 dB
アンテナ端子	75 Ω（不平衡型）

■ AM チューナー部

項目	仕様
受信周波数帯	522 ～ 1629 kHz
実用感度	20 μV, 600 μV/m

■ 映像部

項目	仕様
出力電圧(1 V 入力時)	1 ±0.1 Vp-p
最大入力電圧	1.5 Vp-p
入出力インピーダンス(アンバランス)	75 Ω

■ 総合

項目	仕様
電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	240 W
寸法(幅×高さ×奥行き)	430 mm × 107.5 mm × 394 mm
質量	約 4.6 kg

項目	仕様
電源スタンバイ時の消費電力	約 0.2 W

注)
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる 第 10 次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性ー第 3-2 部：限度値ー高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

表示	内容
⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）**

絵表示	内容
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

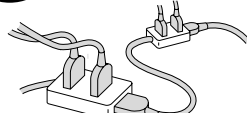
⚠ 警告

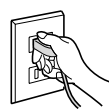
電源コードについて

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

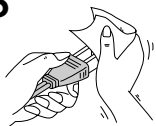
傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。
- ●抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- ●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流 100 V 以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- ●傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

⚠ 警告

電源コードについて

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

ご使用について

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない

ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。
- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

分解、改造をしない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

もし異常が起こったら

異常があったときは、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- 内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき
- 落下などで外装ケースが破損したとき
- 煙や異臭、異音が出たとき

そのまま使うと、火災・感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

雷について

雷が鳴ったら、本機や電源プラグ、アンテナ線に触れない

接触禁止

感電の原因になります。

⚠ 注意

設置・接続について

放熱を妨げない

内部に熱がこもると、外装ケースが変形したり、火災の原因になることがあります。
- 通風孔をふさがないでください。

不安定な場所に設置しない

- 上に大きなもの、重いものを載せない
- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない

電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。
たばこの煙なども製品の故障の原因になることがあります。

屋外アンテナの設置、工事は自分でしない

強風でアンテナが倒れた場合に、けがや感電の原因になることがあります。
- 設置・工事は販売店にご相談ください。

異常に温度が高くなるところに置かない

外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

電池について

電池は誤った使いかたをしない

- ⊕と⊖は逆に入れない
- 新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使わない
- 乾電池は充電しない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中に入れたりしない
- ネックレスなどの金属物といっしょにしない
- 被覆のはがれた電池は使わない
- 乾電池の代用として充電式電池を使わない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。
- 長時間使わないときは、取り出しておいてください。
- 万一液もれが起こったら、販売店にご相談ください。液が身体や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

ご使用について

コードを接続した状態で移動しない

接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

保証とアフターサービス （よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書 （別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、このAV コントロールアンプの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき

27 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

松下電器産業株式会社および松下グループ関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記のとおり、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、ナショナル パナソニック製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
   なお、修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供いたしません。
2. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。
3. お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	AV コントロールアンプ	お買い上げ日	年　月　日
品　番	SA-XR55	故障の状況	できるだけ具体的に

「よくあるご質問」「メールでのお問い合わせ」などはホームページをご活用ください。
http://panasonic.jp/support/

修理に関するご相談

ナショナル パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
- 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電話　フリーダイヤル 0120-878-365（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… 06-6907-1187

FAX　フリーダイヤル 0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256-5444 **Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

ナショナル パナソニック
修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北海道地区

地域	所在地	電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地域	所在地	電話
青森	青森市第二問屋町3-7-10	☎(017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75	☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎(0243)34-1301

首都圏地区

地域	所在地	電話
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎(028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1	☎(027)352-1109
茨城	つくば市花畑2丁目8-1	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-0171

中部地区

地域	所在地	電話
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市西島765	☎(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎(059)255-1380

近畿地区

地域	所在地	電話
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

地域	所在地	電話
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎(083)986-4050

四国地区

地域	所在地	電話
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎(088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎(088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎(089)971-2144

九州地区

地域	所在地	電話
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市長浜町10-1	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地域	所在地	電話
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0105

さくいん

お手入れ

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

愛情点検　長年ご使用の AV コントロールアンプの点検を!

こんな症状はありませんか	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音が出ないことがある ● 正常に動作しないことがある ● 商品に破損した部分がある ● その他の異常や故障がある

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ　（おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	☎（　　）　－	品番	SA-XR55
お客様ご相談窓口	☎（　　）　－	お買い上げ日	年　月　日

松下電器産業株式会社　ネットワーク事業グループ

〒 571-8504 大阪府門真市松生町 1 番 15 号

RQT8122-3S
H0205RT3055